

## 第4章 記号類の使い方

### その1 句読符

#### 1. p99 2. 疑問符・感嘆符

一夫多妻の場合、女性はどうなんだ？ という疑問です。  
という文があります。

この文の疑問符の後のマスあけはどうすればよいでしょうか。

疑問符の後に空白があります。

このQ & Aに《懐中電灯をつかって本を読んでいる人がいる・・・？ と思ったらあなただったの。》の質問に「前に点線があって疑問符なのでこの疑問符は文末と考えた方がよい」という回答があります。疑問符の前に点線はありませんが疑問符の後空白がある場合も、文末と考えることはできますか。

【A】

この文の場合は、疑問符をとって考えてみると、「女性はどうなんだという疑問です」となり、一文として自然ですので、疑問符の後ろは一マスあけがよいように感じます。

現Q & Aの例文は疑問符の後ろ「と思ったらあなただったの」は独立した文になりますが、「という疑問です」だけでは独立した文になっていません。

ですので、一マスあけになります。

#### 2. p99 2. 疑問符・感嘆符

『西原理恵子の太腕繁盛記 FXでガチンコ勝負！編』

というタイトルの中の《FXでガチンコ勝負！編》について質問します。

この「編」は 感嘆符がなかったら「ショーブヘン」と続きます。感嘆符がある場合はどうでしょうか。マスあけしてしまうと、意味が違ってくと思うのですが、文中だから一マスあけでしょうか。

「てびき」p100の疑問符のようにつなぎ符を使うことはできないでしょうか。

【A】

第1つなぎ符を用いて書いてよいと思います。

疑問符・感嘆符は、一続きに書き表すべき1語中にも用いられることも多く、そのような場合は、数字の代わりの疑問符以外でも第1つなぎ符を用いて書かざるをえないと思います。

「てびき」p99【処理2】も、ピリオドの後ろに、一続きに書き表すべき語が続いた

場合の例になります。

点訳フォーラムの語例集にも「芭蕉幕府隠密？説」があります。

### 3. p101 4. 中点

p68【備考2】には「接頭語や造語要素がマスあけを含む複合語全体にかかる場合には、接頭語や造語要素の後ろを区切って書く」とありますが、この「マスあけを含む複合語」には中点も含まれますか。

例えば「市内小中学校の全児童・生徒らが」「要支援・介護の認定を受けた」です。

「全」は「全児童・全生徒」と「児童・生徒」にかかり、「要」は「要支援・要介護」と「支援・介護」にかかっていますので「ゼン」「ヨー」の後ろで切ってよいでしょうか。

「小中学校」は一語で書き表わしますが、「小・中学校」となるとてびきP102②「小・中学生」の例から中点を使って書いています。つまり、てびきP103備考の「本来一続きに書く語」でも「同格・並列」に当たる場合は中点を使用するという解釈でよろしいですか。

もし原本の文章に「小・中学校」と「小中学校」が混在している場合でも原本通り中点を使ったり使わなかったり、原本の表記に合わせればよいでしょうか。

【A】

中点是对等な関係で並ぶ語句の区切り目に用いますので、「要支援・介護」「全児童・生徒」の場合は、「支援・介護」「児童・生徒」が中点を用いる部分になります。

中点を用いる場合は、前の「要・全」は区切って書くことになります。

ヨー■シエン・■カイゴ   ゼン■ジドー・■セイト

原文に、点字で用いる中点（「てびき」 p101 (1)①②）が用いられている場合は、原本どおりに書くのが原則ですので、原本の表記に合わせてよいと思います。

ただ、原本で、他の表記も含め不統一が目立つ場合や、蔵書用図書ではない、広報誌などでは、表記を検討することもあり得ると思います。

### 4. p101 4. 中点

向田邦子の「あ・うん」というタイトルがあるのですが、この中点はどう処理したらいいでしょうか。「てびき」 p102(2)②の誤読を避けるためや語句の切れ目を明らかにするために用いられている中点と考えて、一マスあけにして「あ■うん」と書いてもいいでしょうか。

【A】

「あうん」は「阿吽の呼吸」のように一語としても使用されますが、狛犬や金剛力士像の「あ」像と「うん」像の一对も意味しています。

向田邦子の「あ・うん」は登場人物の二人を「あ」と「うん」とに表しています。

その意味では、このタイトルは、対等な関係で並ぶ、中点の用法になっていると思いますので、中点を用いてよいと思います。

物語の中で、一語としての「あうん」の意味に用いられている場合は、一続きに「アウン」と書き、「あ・■うん」と並記されている場合は、「ア・■ウン」と中点を用いることになります。

## 5. p101 4. 中点

1・3・4 楽章は中点を使い、マスあけして書き、七・五・三、六・三・三制、五・七・五は中点を使わず、間を詰めて書くのは理解しています。

続けて書く際の説明として、「てびき」では、p34とp102で「一語中で数字が並んでいる」、「はじめての点訳指導者用マニュアル」p106で「一語の中で数字が並んでいる」とされていますが、この「一語」とは、「点字かどうか関係なく、日本語のルールとして一つの言葉」なのか、「点字では一つとして扱う言葉」なのか、改めて考えたところ詰まってしまいました。

初心者の方に説明する場があり、該当箇所を読み返して、1・3・4 楽章はもともと独立した語が複合語になっているのはわかるのですが、七五三ももともと独立した7才、5才、3才が並列で並んでいるのではないか、六三三制も6年、3年、3年の並列ではないのかと言われれば返す言葉がなく、理解の浅さを痛感します。

点字で一続きに書く言葉だから、中点があっても一続きに書くという言い方も、点字で一続きに書く言葉が曖昧な段階の方には、循環論になってしまうように思います。

### 【A】

「1語中」は、日本語の中では、マスあけを含む複合語も1語と言えますが、「てびき」では、3章以降では必要に応じて「一続きに書き表すべき1語中」と表現しています。2章ではまだ「分かち書き」を学んでいないので、「一続きに書き表すべき」ということを前提に「1語中」という言葉を用いているところがあります。

「七五三」「六三三制」「五七五」は、一続きに書き表すべき1語中で数字が並んでいる場合に当たります。「二・二六事件」「3・11大震災」は月と日の省略に当たります。

「七五三」「六三三制」「五七五」は、三つの数字が並記されていますので、原文に中点が用いられていれば、点字でも中点を用いてもよいように思われますが、すでに単に7歳と5歳と3歳の並記ではなく、「七五三」という子どもの成長を祝う儀式を意味しますし、「六三三制」も単に6年と3年と3年の並記ではなく、日本の教育制度を表しています。1語としての新たな意味を持っていますので、続けて書きます。

それに対して、「1・3・4 楽章」は、1楽章と3楽章と4楽章の並記以上の意味は

ありません。「2・5 楽章」「1・2 楽章」でも並記として、原文に中点があれば中点を用いて書きます。

「七・五・三歳は、歯の検診があります」となれば、中点を用いて書きます。

## 6. p101 4. 中点

「司会・進行は山田さんです」の中点は必要な中点ですか？それとも省けますか？

【A】

「司会と進行は山田さんです」と解釈すれば、「シカイ・■シンコー」と書いても間違いではないように思いますが、「司会進行」は実際には「司会者として進行するのは」という意味合いを指すと思いますので、そう解釈すると「シカイ■シンコー」になります。

微妙な言葉で、日本語として曖昧な表現です。

点訳フォーラムとしては、シカイ■シンコーと中点を用いない方がよいと思いますが、中点を用いても間違いとは言えないと思います。

## その2 囲みの記号

### 1. p104 1. カギ類

小説を点訳中なのですが、

「～」・・・ただの会話のカギ

〈～〉・・・名称・場所・ネット内での会話（リプライ・いいね）等の強調

《～》・・・テレビの中の会話文

『～』・・・「～」や《～》内の会話や強調

点訳者は、会話文では第1カギを使い、それ以外の〈～〉《～》は第2カギとしました。『～』はそのまま、第2カギや第1カギ内の囲み記号なのでそのままふたえカギを使用しています。

そして、〈〇〇事件〉と名称など〈～〉で囲まれたものが《～》内に書かれてある場合は『〇〇事件』とふたえカギに置き換えられています。

（第2カギの中に第2カギはおすすめではない、と質問集に記載されていたからだと思います）

そして、校正者より、

“夢”についての質問集で、直前に地の文で“～”を第2カギで囲んだなら、カギの中で同じ語句が出てきた場合は第2カギで囲むのが自然です、とありました。なのでここは〈～〉で囲まれているのを『～』に置き換えるのは違和感があります。異なるカギを用いてもよいのですかと指摘されています。

やはり今回もこれに当てはまるのでしょうか。

〈〇〇事件〉や〈〇〇図書館〉など、名称に〈〜〉が使われ複数でできます。《〜》のテレビ内の会話の中にもでできます。

そのままふたえカギとしても問題はないのでしょうか。

《〜》で囲んだものを第1カギにし、その中の〈〜〉はふたえカギでなく、第2カギにしたほうがよいのでしょうか。

【A】

原本全体を通して統一した方法で点訳されていますので、点訳者のままだよいと思います。

確かに、地の文に第2カギを用いた語句が、カギの中にある場合、カギの中でも第2カギに統一するという方法もあり、「てびき」の例としても挙げていますが、それは、原文全体のカギの使われ方によって、判断するところです。

今回ご質問の例では、そのようにすると、第2カギの中に第2カギを用いることになって不自然ですので、点訳者の判断通りがよいと思います。

点訳フォーラムQ&Aにも書きましたが、「てびき」は少ないスペースのなかに全ての記号の用法を掲載するという制限がありますので、1冊の原本の中での判断までは示しきれないところがありますことをお分かりいただきたいと思います。

## 2. p104 1. カギ類

囲みの記号について、校正で指摘してよいのか迷っています。

原本で使われているカギ類は1か所だけ《・・・》が使われていますが、それ以外は「・・・」と『・・・』です。二重カギは第1カギの中、過去の会話、語句、店名などで使われています。点訳者はカギの中のカギ以外は全て第1カギにし、カギの中の二重カギを第2カギにしています。原本で使われているカギはほぼ2種類だけですし、著者も意図があって使い分けていると思います。第1カギの中の二重カギをわざわざ第2カギにしなくても原本通り二重カギでよいと思いますし、それ以外の二重カギは第2カギにして第1カギと使い分けてもよいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。それとも基本的に第1カギを用いるということですし、明らかな間違いではないので、校正はしない方がよいのでしょうか。

【A】

カギの使い方については、お考えのように処理するのがよりよい点訳になると思います。また、点訳者の方法も間違いとは言えないこともおっしゃるとおりです。

1次校正か、2次校正か、また、施設・団体内での校正者のあり方などによっても異なってくると思いますが、少なくとも、「全体を通してこのように点訳したらどうでしょうか」という校正者の意見を付けておくと、これからの点訳にも役立たせていただけたと思います。

### 3. p104 1. カギ類

「「「したいに決まってるだろう！」」」

この文面でカギが4個重なって書かれているのですが、点訳を「したいに■きまってるだろー！」としたのですが、「点訳挿入符」で説明が必要でしょうか。必要とすれば、どのように点訳すればよいのでしょうか。「てびき」にもないので同じ記号を重ねることはできないと思います。

【A】

大勢の人が同時に発言したことを表しているのかもしれませんが、前後の文脈で理解できると思いますので、一つの第1カギで囲んで書いてよいと思います。

「シタイニ■キマッテンダロー！」

### 4. p106 2. カッコ類

ある質疑応答集を点訳しています。質問に① ②と書かれている箇所があり、第1カッコを用いようと思いました。

ところが回答の方に「頒布する者(①の場合は甲、②の場合はテレビ局(基幹放送事業者))に」という表現が出てきました。前も後ろも第1カッコが2つ続くことになります。(基幹放送～)の部分は2重カッコにするとしても、①の方は問いの部分との書き方が違うことになってしまいます。

こういう場合はどのように考えればいいのでしょうか。

【A】

1. 差し支えなければ、質問集全体の①②…を1. 2. にするのが、もっともよい方法だと思います。

2. または、第1カッコで囲んだ数字がカッコの中にある場合も、カッコの中のカッコですので、二重カッコで囲むのが原則になります。ご質問の場合も、カッコの中では二重カッコで囲みます。

1. 2. どちらかの方法を採用することになります。

「てびき3版Q&A」Q115に「カッコも含んだ形で意味があり、点訳上どうしても避けられない場合」は第1カッコの中に、第1カッコで囲んで書いてもよいとありますが、これは「どうしても避けられない場合」になります。

カッコの開きと開き、閉じと閉じが連続する場合も「避けられない場合」はやむを得ないとして書いてありますが、これは、法律の条文を専門書の中に書く場合や試験問題番号で変えられない場合などに限られると考えます。

今回のご質問では工夫によって変えられますので、やはり、最初に述べた1. か2. の方法を採用のがよいと思います。

## 5. p106 2. カッコ類

第2カッコは、語句や文の説明の時に使うとあります。実際に使うことがないのですが、【 】は、第2カッコとして使うことができますか。

第2カッコの例は、「てびき」p107に一つだけありますが、これだけではよくわかりません。語頭に【品目例】と書いて後ろに品目が羅列してある場合、第2カッコを使って書いてもおかしくないですか。

### 【A】

第2カッコは、第1カッコ以外のカッコ類が必要な場合に用いますが、2種類のカッコ類が必要なことは、ほとんどありませんので、第2カッコはあまり使用する機会はありません。

カギ類もそうですが、カッコ類は墨字のこの記号に対応するということはありません。「てびき」p109「コラム23」にありますように「機械的に形で対応」させることはありません。

p107は、すべての記号の使用例を入れる必要から、この例をいれたもので、

（視覚障害者のための触読文字）のあと、一マスあけて、第1カッコで囲んで（名詞）と書くこともできます。p108 【備考】と同じ用法です。

【品目例】の場合は、点訳では、カッコ類を使わずに、品目例の後ろに第1小見出し符を用いることもできますし、棒線や、二マスあけにすることもできます。カッコ類を用いる場合は、第1カッコがよいと思います。

第2カッコを用いる例としては、翻訳物などで、原著者の注と訳者の注に異なるカッコが用いられていて、原本にそのような凡例があり、点訳で文中注記符を用いないで書く場合などでしょうか。

## 6. p106 2. カッコ類

以下の文章でのカッコについてです。

では、その仕事ぶりの評価という意味では、トランプ政権の公約達成率は何の程度の状況となっているだろうか。トランプ大統領の公約達成状況を精査する「PolitiFact」によると、2019年11月現在「公約達成（17.6%）」「妥協（10.8%）」「作業中（27.5%）」「停滞中（27.5%）」「不履行（16.7%）」となっている。

この文章での（～）は説明カッコだと思います。しかし、文章の流れで（～）内のパーセントの値がないと文として成立しないので説明カッコではないという意見が出ました。説明カッコは（～）の部分がなくても文章として成立し、（～）の部分がないと文章として成立しないのは挿入カッコではありませんかと意見が出ました。

どう判断するのでしょうか。

【A】

この場合は、前の語句の注釈的説明として、前の語に続けて書きます。

「てびき」p106のカッコ類の規則の記述では、まず(1)で「カッコ類は原則として注釈的説明の語句を囲む場合に用いる」として、(3)で「～明らかに注釈的説明と異なる場合は～」と述べています。また、p108の「参考」でも1文目に「カッコ類の基本的な用法は～前の語に続けて書きます」と述べ、最後にも「～迷った場合は基本的な用法を選び、前の語に続けて書きます」と念を押して説明しています。

前を一マスあけるのは、ごく限られた独語や回想、注記・略語ですので、明らかにそれと分かる場合だけ、前を一マスあけます。

ご質問の原文は、確かにカッコを用いないで書く形がより正確かと思います。ですが、文意は正確には伝わりませんが、カッコを省略しても文の形は成り立ちますので、原文にカッコが用いられている以上、カッコは注釈的説明として前に続けて書きます。

「てびき」p108の「参考」は、例外についての説明ですので、カッコの用法の原則を確認した上で読んでいただきたいと思います。

## 7. p106 2. カッコ類

【例】 スマイルプランナー登録制度など

という原文の【例】の【 】を第1カッコに替えて点訳した場合、(例)のあとのマス開けは二マスあけでいいのでしょうか。

このQ&Aの中では、第1カッコで囲まなくて二マスあけにすることもできますとあります。ところが、「てびき」第4版点訳版では、墨字版の「備考」や「処理」を第1カッコで囲んで、そのあと一マスあけとなっています。

そうすると、(例)のあとは一マスあけなののでしょうか。カッコ類のあとのマスあけは分かち書きの規則に従うとありますが、「てびき」の点訳版の書き方はどうなのでしょう。

【A】

【例】【備考】のような、小さな見出しのような語は、いろいろな工夫の方法があります。

多く用いられるのが、レイやビコーを第1カッコで囲む方法です。この場合は3マス目から書き、後ろを一マスあけします。

囲み記号を用いず、レイやビコーだけを書く方法もありますが、その場合はうしろを一マスあけにするか、小見出し符類や棒線などを付けるかの工夫を要します。これは、囲みの記号を用いないで語だけを後ろ一マスあけで書くと複合語の一部のような誤解を受ける恐れがあるためです。ですから、二マスあけにしますが、カッコ



で囲むとその恐れがないため、通常一マスあけにしています。

「てびき」 p106の(2)の規則は、一般的な文の中での規則ですので、ご質問の場合は、少し条件が異なり、特殊な例になります。

## 8. p106 2. カッコ類

図が数点ある本です。

福音派は・・・35%近くを占めるという。([図1])

次の[図5]は、・・・。

といった書き方がされています。

この[ ]は第2カギでよいのでしょうか。またこのようにカギに囲まれているときは、図を囲む枠線上にズ■数○と入れることはできないのでしょうか。その方がすっきりした書き方になると思うのですが、枠線内に<ズ■数○>■■見出し としなければいけないのでしょうか。

【A】

[ ]で囲まれていても、図や表、資料などを示すこのような場合は、第1カッコで囲みます。

福音派は・・・35%近くを占めるという。([図1])

この場合は、([図1])全体で、第1カッコで囲めばよいと思います。

([図1]を参照)のように、他の語句と共にカッコで囲まれている場合は、中のカッコを二重カッコにします。

図を囲む枠線上にズ■数○と入れる場合は、カッコを付ける必要はありません。この場合も、図を囲む枠線上にズ■数○と書いてよいと思います。

## 9. p108 2. カッコ類 [参考]

カッコが大変多い本です。文章の途中をカッコで囲んでいるような使い方がされています。

1. 理学的研究では、一夫一妻制社会では(一夫多妻制社会とは異なり)男性は51歳以上生きる意味がないと、かなりピンポイント的な値を算出して結論されているくらいです(やっぱりツライ)。

2. 乳がん、卵巣がん、白血病、肺がん、すい臓がん・・・、等々(やっぱり多い)。

3. こうした感染症は(他の身体的疾患も)本書の後半で強調している「普通の生活(食を含む)」で(無意識にも)十分に対応できますから、やっぱり本文を普通に読んでください。

(やっぱりツライ)(やっぱり多い)は独語と考えてカッコの前はひとマスあけでし

ようか。それ以外のカッコは前の言葉を説明しているわけではありませんが、カッコの部分を省略しても文章が成立するので注釈的説明として前に続けて書いてよいでしょうか。

【A】

1. 理学的研究では、一夫一妻制社会では■（一夫多妻制社会とは異なり）■男性は51歳以上生きる意味がないと、かなりピンポイント的な値を算出して結論されているくらいです（やっぱりツライ）。

2. 乳がん、卵巣がん、白血病、肺がん、すい臓がん・・・、等々（やっぱり多い）。

3. こうした感染症は■（他の身体的疾患も）■本書の後半で強調している「普通の生活（食を含む）」で■（無意識にも）■十分に対応できますから、やっぱり本文を普通に読んでください。

となり、■を入れた箇所以外は前に続けて書きます。

「てびき」p108 [参考] にありますように、カッコ類は基本的に前の語句の注釈的説明で、迷った場合は前の語句に続けて書きます。

ただ、[参考] には、前を区切って書く場合として、「独語と、前の語句の説明ではなく後ろの文脈にかかること」が挙げられています。

1. の（一夫多妻制社会とは異なり）、3. の（他の身体的疾患も）、（無意識にも）は、後ろの語にかかっています。後ろの語の説明のようになっていますので、前を一マスあけます。

そのほかは、原則通り、前に続けて書いてよいと思います。

## 10. p109 「コラム23」

【 】の扱いについて質問します。原本はドキュメンタリーです。会話文、強調は第1カギを使っています。

①引用文の部分は下がっています。

（原文）一二月二九日の朝日新聞は次のように伝えた。

【モスクワ＝駒木明義】ロシアのプーチン大統領は二七日、・・・

【モスクワ＝駒木明義】の部分のカギなしで小見出し符をつけると、二マス下がっていても大丈夫でしょうか。

また、モスクワ＝駒木明義の＝は棒線でよいでしょうか。

②【写真1】【写真2】と示され、キャプションがついています。本文中に、【写真1】と【写真2】を見てみよう。など解説が書いてあります。

写真、本文中の【 】は何の記号を使うのが適切でしょうか。

【A】

① 「モスクワ支局員の駒木明義が発信」のような意味になると思いますので、小見出し符ではなく、第1カッコで囲んで書くのがよいと思います。

(モスクワ■■駒木■明義)■■ロシアの～  
となります。

小見出し符類は、引用文を、行頭二マス下げで書く場合は、用いることができません。「てびき」p121 (2)に「3マス目から見出しを書き…」とありますので、5マス目から書き出すことはできません。

また、「＝」を棒線にすると、対等な関係の「イコール」のようにも思われますし、4マスも必要になりますので、ここは意味の上からも、二マスあけの方が適していると思います。

②写真1、写真2の点訳方法にもよると思いますが、キャプションを書くときに、各見出しの最後にまとめて、シャシンと見出しを立て、1、2の番号順にキャプションを入れていく場合は、本文の【～】は無視して、記号を用いずに書くこともできます。

【写真1】【写真2】をカッコ類で囲んで、キャプションを書く場合は、本文でも同じ記号を用いてもよいと思います。

## 11. p109 「コラム23」

カギの使い方についてお願いします。新聞の見出しです。

【ご病床 鏡に映す十三夜（ここで改行）  
—「少し欠けてるね」と陛下】  
とあります。

【～】は第2カギにして、第1カギはそのまま第1カギのままでいいのでしょうか。それとも反対にした方がいいのでしょうか。2行のままでいいのでしょうか。

【A】

新聞の見出しは、その記事そのものの点訳でも、読み物などに引用されている場合でも、行頭5マス目、7マス目などから書き出します。このように見出し全体が囲みの記号で囲まれている場合は、行頭を下げたことによって見出しと分かりますので、囲みの記号は点訳しません。また、原文のレイアウトによって途中で行を替えて書いてあっても、点字の書き方で点訳して良いと思います。例えば

■■■■■■■■ゴビョーショー■■カガミニ■ウツス■数13ヤ（改行）

■■■■■■■■■■ー■「スコシ■カケテルネ」ト■ヘイカ

行頭7マス目から書いた場合は、このようになります。

ただ、この見出しが、原文の本文中に、行を替えずに引用されている場合は、本文

と区別するために、全体をカギで囲みます。その場合は、第2カギで囲んで良いと思います。第2カギの中の第1カギは、第1カギのままで構いません。

## 12. p109 「コラム23」

コラムではカギ類を用いるか、カッコ類を用いるかは、機械的に形に対応させるのではなく、意味・用法を考えて決めるとあります。

「サピエ図書館」登録点字文書 製作基準の 3目次の【例2】の中で、【世のなか 食のなか】 【買い物案内】など見出し語の頭に【墨付きカッコ】で囲まれた語句があります。これらは、語句の強調のために使われている囲み記号だと判断しました。

しかし、次ページの点訳例では 第1カッコで囲んでいます。

カッコ類を使うのは、どのような理由なのでしょう。

また、用途から判断してカギ類を使うことは、好ましくないのでしょうか。

現在点訳中の本では見出し語として、【石原式基本食】のススメ、【梅醤番茶】の作り方 という使い方をしています。カギ類・カッコ類のどちらを用いるとよいのでしょうか。

【A】

「製作基準」の例は、小さな見出しを囲むカッコの例になります。「てびき」の【備考】や【処理】も点字版では、第1カッコで囲んでいます。第1カッコには慣習的にこのような用法があります。点訳フォーラムの「点訳に関する質問にお答えします」の「コラム23」の項にも、このような例を取り上げていますので参考になさってください。

ご質問の【石原式基本食】のススメ、【梅醤番茶】の作り方 は見出しそのものではなく、見出しの一部を強調する用法ですので、カギ類（第1カギまたは第2カギ）を用います。

## 13. p109 「コラム23」

原本で見出しが「～」で囲まれています。点訳者は「～」で囲んで原本に従い点訳をしています。見出しが「～」で囲まれていて装飾的な意味合いの時は省略して書くことが多く、それ以外では「～」で原本通りに点訳をしてよいとの考えがあるようですが、点訳者によって取り方が違うのではないかと思います。

見出しは行頭のあけ幅から本文とは違う事がわかるので「～」を外して点訳をした方が良く、校正で指摘して良いのでしょうか？

校正では明らかな間違いを指摘することと言われますが、よい点訳本を作るために考えを出し合った方がよいのか。そこのバランスで迷っています。

【A】

その原本の見出しが全て「～」で囲まれているのであれば、省略して点訳してよいと思いますが、「～」で囲まれている見出しと囲まれていない見出しが混在している場合は、原本通りに「～」も含めて点訳することになります。

この点に関しては、校正で指摘するかどうかの基準ははっきりしていると思われま

す。  
校正は明らかな間違いを指摘するものですが、読者の立場に立って、点訳処理が適切で読み取りやすいものであるかを考える役割も求められます。

墨字ではレイアウトや字体などとの兼ね合いからカギで囲むことによって見出しであることを示す場合も多いのですが、点字では書き出し位置の違いで表すことになっています。その上に語全体に強調の囲みが用いられることは意味合いが重複し、その分触読マス数が増えることになります。触読文字である点字ではシンプルに読み取れることも大切ですので、その点を含めて再考いただくことを提案されてはいかがでしょうか。

#### 14. p109 「コラム23」

囲みの記号の使い方とマスあけについて、校正してよいのか迷っています。

各見出しの最後に同じ形式で出典が書かれています。

（＜マイ・ヒーロー&ヒロイン＞ 坂田靖子『バジル氏の優雅な生活』「読売新聞」2004年8月25日）

（＜私を変えたこの1冊＞「小説トリッパー」2004年4月冬季号）

といった書き方です。

＜・・・＞の部分はどのような囲み記号を使うのが適切でしょうか。点訳者は二重カッコを使用しています。原本通り第2カギでもよいような気がします。

また、点訳者は要素間を次のようにマスあけしています。

（＜マイ・ヒーロー&ヒロイン＞■■坂田靖子■『バジル氏の優雅な生活』■■「読売新聞」■■2004年8月25日）

これで問題ないでしょうか。

#### 【A】

原本に『～』が用いられていないので、この場合は、＜～＞をふたえカギにすることは間違いになります。

第1カギか第2カギになりますが、「読売新聞」「小説トリッパー」と新聞・雑誌名に第1カギが用いられているので、第2カギでよいと思います。

他の要素間はカギ類が用いられていても二マスあけで、著者と書名の間だけ一マスあけになっているのは、間違いとは言えなくてもバランスが悪いと思います。すべて二マスあけにするか、囲みの記号が用いられているところは一マスあけで統一するかどちらかにすればよいと思います。

ただ、この場合は、2004年8月25日付けの「読売新聞」のようにどちらかといえば一マスあけでよい所も含まれていますので、一マスあけの方がよいかもしれません。

#### 15. p109 「コラム23」

本文中に太字で書かれた【相談】【回答】【Ⅰ】【Ⅱ】【問】【答】【事例1】などが出てきます。いずれも第2カギを使い、カギを閉じたあと一マスあけにしました。

「コラム23」のQ&Aを読み、第1カッコを使った方がよいのかまよっています。本文中に出てくる(1)①は、第一カッコを使っています。

【A】

このような小さい見出し的な語句に囲みの記号を用いる場合は、第1カッコが適しています。

ただ、原文で囲み記号が用いられていても、【相談】【回答】などは、囲み記号を省略して小見出し符を用いたり、場合によっては（相談の文章が長い場合など）5マス目からの見出しにすることもあります。

また、ローマ数字【Ⅰ】【Ⅱ】はカッコを用いず、ローマ数字にピリオドを付けて、後ろを一マスあけにすることもできます。

【～】はすべて機械的に第1カッコに置き換えるのではなく、分かりやすく、スッキリしたレイアウトを心がけるのがよいと思います。

#### 16. p109 3. 指示符類

原本では、本文で太字が多用されています。普通は太字を無視して点訳しますが、冒頭の「はじめに」の中で「解説の主なポイントを太字にしてください。言葉とともに解説の太字もじっくり読んでほしい。ビジネスにも、生きる上でヒントになるはずだ。」という一文があります。この文章がなければ迷わないのですが、この場合、指示符を使った方がよいのでしょうか。個人的には使用する必要はないと思っているのですが、どう対応すべきでしょうか。

【A】

太字が多ければ読みにくくなりますので、太字であることを無視する点訳方法も十分に考えられると思います。

そのような場合は、「はじめに」の「解説の主なポイントを太字にしてください。言葉とともに解説の太字もじっくり読んでほしい。ビジネスにも、生きる上でヒントになるはずだ。」の文の後に点訳挿入符で《点訳では太字に記号類は用いず、そのままにした》または、《点字では記号類の多用が文脈理解を妨げるおそれがありますので、そのまま点訳します》のように、断ればよいと思います。

#### 17. p109 3. 指示符類

「原稿用紙なんてものはありません…」(傍点は筆者による)

「なんてもの」に強調の点が付けてあり、そのあと、説明がありますので第1指示符を付けて点訳してあります。ただ、あとのカッコの中は

(ボーテンワ■ヒッシャニ■ヨル) とだけ点訳してあります。

ボーテンのあとの「指示符メメ指示符」は省略してもいいのでしょうか。

【A】

「てびき」p110の例にありますように、一般には、指示符の形も付けた方がよいと思いますが、点訳書凡例で《筆者による傍点には、第1指示符を用いた》と断ったり、原本の凡例で、傍点筆者について説明があり、その際に点訳では第1指示符を用いたことを書き添えていたりすれば、(ボーテンワ■ヒッシャニ■ヨル) だけでよいと思います。また、学習書などで、傍点・傍線に指示符類が使われていることが、明らかであれば、指示符の形を付けなくてよい場合もありますし、指示符の形だけを書く場合もあります。

原本によって、どの方法が良いかを判断してください。

## 18. p111 5. 点訳挿入符

シナリオの点訳をしています。

映像用語が (F. I) (O. L) など記載されています。

フェード■イン、オーバー■ラップなど読みを書き入れようと思いますが、点訳挿入符で囲むのがよいのか、第1カッコで囲むのがよいのか、どちらがよいでしょうか。

【A】

原本に F. I (フェードイン) のように読みが書いてあれば、第1カッコで囲みますが、F. I という略称に、フェードインと読みを加えるのは点訳挿入符になると思います。

このような語が、(F. I) (O. L) のほかにもあるのだしたら、点訳書凡例で、《以下の語は本文中では略記されています。》のように断っておくと、本文中に点訳挿入符で入れるよりすっきりすると思いますし、ピリオドも省略して書くことができます。知識として持っている方が点訳挿入符で中断されることも防ぐことができます。

フェードイン■②⑤②⑤■外大大F I

オーバー■ラップ■②⑤②⑤■外大大O L

## 19. p111 5. 点訳挿入符

次の文章の点訳について質問です。

高天原にあらわれた最初の神は、天之御中主神といいます。

これはどう読むと思いますか？

〈アメノミナカヌシノカミ〉と読むのです。

(出典「古事記—日本のはじまり—」)

初めの漢字記載の「天之御中主神」の部分の点訳はどのようにするのでしょうか。あとに出てくる実際の読み〈アメノミナカヌシノカミ〉ではなく、何と読むか質問しているので、漢字の説明を入れる必要があると思いますが、「てんの／おんちゅー／あるじ／かみ((6文字の漢字))」の様な書き方はおかしいのでしょうか？ 点訳挿入文を入れるにも、点訳挿入文だけでなく、原文の読みを何らかの形で表したものに付けなければいけないと思うので、困ってしまいました。

【A】

アメノ■ミナカヌシノ■カミ点挿カンジ■6ジデ■テン■ノ■オン■ナカ■シュ■カミ点挿ト■イイマス。

のように書いてはどうでしょうか。

最初に答えをいう形になりますが、正しい読みで点訳するのがよいと思います。

## 20. p111 5. 点訳挿入符

同音異義語についての質問です。

「言葉のおもちゃ箱 伊奈かつぺい綴り方教室」伊奈かつぺい著の中に、同音異義語で「池、鯉、亀、桶、家、翁⇒行け、来い、噛め、置け、言え、起きな」をあてているのですが、点訳挿入符で説明がいるかと思うのですが、どこにどのように入れたほうが、読むにあたって流れを止めずに、本の雰囲気壊さずに伝えられるかと思い質問しました。

文は以下の通りです。

1. 【池、鯉、亀、桶、家、翁…これらの文字を見るたびに命令形を思い、ムツとする性格なのだ。雀…暑いだろうヨなどと思ったりもするがね命令形。…池、鯉、亀、桶、家、翁。とりあえず声に出して読み別な字に置き変えてみるアソビ…抱きつくように舐めまわす。声に出して嫁これも命令形に書き直せ、なんてね。】と前半の文があり、(中略)、後半に【池、鯉、亀、桶、家、翁の命令形とは一行け、来い、噛め、置け、言えとなる。『翁、いつまで寝ているつもりか』となれば、翁は起きなと命令形に変化する。雀…暑いだろうヨの雀は涼めに直すとわかりやすい。声に出して嫁とは声に出して読めとなる。】

点挿イケブクロノ■イケ、サカナノ■コイ、ツルカメノ■ツル、フロオケノ■オケ、イエガラノ■イエ、オジイサンノ■イミノ■オキナ点挿、を最初にでてきたところのすぐ後に1回のみ入れてはどうかと思っています。



上記とは別に、もう一つ、以下の文があります。

2. 「おかしなコレクション・陶々おつむテン展と題して手作りの陶器、焼物の展覧会を開催したのは1978年（昭和53年）。」

「おかしなコレクション・陶々おつむテン展」のあとに、この〈陶々〉は点挿でトージキノ ト一点挿と説明したほうがいいのでしょうか？この後に、陶器、焼物の展覧会とあるので点訳挿入符での説明はいらないような気がするのですが。

【A】

1.

【池、鯉、亀、桶、家、翁…これらの文字を見るたびに命令形を思い、ムッとする性格なのだ。雀…暑いだろうヨなどと思ったりもするがね命令形。…池、鯉、亀、桶、家、翁。とりあえず声に出して読み別な字に置き変えてみるアソビ…抱きつくように舐めまわす。声に出して嫁これも命令形に書き直せ、なんてね。】

⇒ この部分に一つ一つ漢字の説明をいれていると、とても冗長になり、読んでいて文意が把握しにくくなると思います。ここは、それぞれ名詞を動詞の命令形に替えることのおもしろさを言っているので、

【池、鯉、亀、桶、家、翁点挿すべて漢字の名詞点挿■…これらの文字を見るたびに命令形を思い、ムッとする性格なのだ。雀点挿鳥の名点挿■…暑いだろうヨなどと思ったりもするがね命令形。…池、鯉、亀、桶、家、翁。とりあえず声に出して読み別な字に置き変えてみるアソビ…抱きつくように舐めまわす。声に出して嫁点挿お嫁さん点挿■これも命令形に書き直せ、なんてね。】

【池、鯉、亀、桶、家、翁の命令形とは一行け、来い、噛め、置け、言え点挿動詞の命令形点挿と■なる。『翁点挿おじいさん点挿、■いつまで寝ているつもりか』となれば、翁は起きなと命令形に変化する。雀…暑いだろうヨの雀点挿鳥点挿は■涼めに直すとわかりやすい。声に出して嫁点挿およめさん点挿とは■声に出して読めとなる。】

これだけで、文意は通じると思います。

2. 「おかしなコレクション・陶々おつむテン展と題して手作りの陶器、焼物の展覧会を開催したのは1978年（昭和53年）。」

「トートー■オツム■テンテン点挿「トー」ワ、■トーキノ■トー、■サイゴノ■テンワ■テンランカイノ■テン点挿」と書けば、漢字の当て字であることが分かります。

## 21. p111 5. 点訳挿入符

原本の中に

ゴードマ・ブッダも「ブッダ」と書き、ゴードマ・ブッダ以外の諸仏については「仏陀」に統一した。

と、いう一文があるんですが、この場合漢字のところは点訳挿入符を使って、

点挿ホトケ■アミダノ■ダ点挿

と、入力したほうがいいのでしょうか？

【A】

少なくとも「ブッダ」と「仏陀」が、カナと漢字であることは説明する必要があります。

前のブッダに点訳挿入符で「カタカナ」と入れ、後ろのカンジの部分は

「ブッダ点挿カンジ点挿」

「ブッダ点挿カンジデ■「ホトケ」ニ■アミダノ■「ダ」点挿」

文脈によって、どちらかを用いればよいと思います。

## 22. p111 5. 点訳挿入符

次のような時はどのように点訳すればよいのでしょうか。

いい笑顔だ。目が特に。

線のように細くなって、目頭から目尻まできれいな弧を描いて、つまり三日月というか、タテ書き上カッコー「(」みたいで・・・。

ダイブツさんはにっこり笑う。両目がタテ書き上カッコの「(」になった。

カギの中は縦書きの上カッコです。パソコンで入力できないのでヨコカッコを書いています。あだ名がダイブツさんと呼ばれている方の目の表現です。

【A】

タテ書き上カッコー「(」みたいで

ここは、カギも入れると、文章が不自然になってしまいますので

⇒ タテ書き上カッコ((墨字記号の形が添えてある)) みたいで

のように点訳挿入符で囲んで書き、次の文は

両目がタテ書き上カッコの「(」になった。

⇒ 両目がタテ書き上カッコの「((記号))」になった。

と書いたらどうでしょうか。

## 23. p111 5. 点訳挿入符

歴史的仮名遣いの文章についてです。現代文の中に、和歌や法律が引用されたような場合です。歴史的仮名遣いにする必要、必然性があれば、断ったうえで、歴史的仮名遣いにすることは承知しています。

ただ、特に歴史的仮名遣いにする必要がない場合、

「点挿ゲンブンノ■ママ点挿」を入れて 原文にあるように歴史的仮名遣いで表記することについて、校正で、どのように扱ってよいか、迷っています。

(例)

アタツテワ ((ゲンブンノ■ママ)) ← 法律の条文の引用文で、「あたっては」  
(アオニヨシ ～) ハナノ■ニホフガゴトク ((ゲンブンノ■ママ))

「てびき」p23 「現代文の中に歴史的仮名遣いの語句や文が挿入されているときは、現代文の仮名遣いに直して書くことを原則とする」とあるので、現代文の仮名遣いでと、説明しましたが、((ゲンブンノ■ママ)) を書けば、これでいいのではないかと言われました。また、それに同意する人もいました。

この解釈は、それで良いでしょうか。

歴史的仮名遣いの必要性がなければ、現代文の仮名遣いの方が、読み手にはわかりやすいのではと考えましたが、そのような指摘は校正の範疇を超えるでしょうか。

【A】

一般文章中では現代文の仮名遣いで点訳するのが原則となります。

ご質問の中では、和歌は古文の点字表記で点訳することもあるかもしれませんが、法律の条文は、現代文の仮名遣いにすることをお勧めします。

和歌などを古文の点字表記で書く場合は、点訳書凡例で断った上で「てびき」 p211以降の表記に従って書きます。

そのつど、点訳挿入符で((ゲンブンノ■ママ)) と入れるのは避けるということを、校正で指摘する必要があります。

触読ではその部分を飛ばして読むことは困難ですので、その都度、((ゲンブンノ■ママ)) を、読まされてしまう煩わしさやわかりにくさに配慮すべきです。

読みやすい点訳を心がけることが求められると思います。

## 24. p111 5. 点訳挿入符

原文が以下のようになっています。

台詞の人物の名前は3文字で書きます(例えば、「長谷川」や「二ノ宮」の場合はそのまま良いのですが、「三宅」の場合は「三 宅」という具合に、あいだに1文字空けて高さの幅をそろえます)。

「三 宅」は、どのように表記すればよいかご指導のほどよろしくお願いします。

【A】

《「三宅」という具合に、》を省略して、  
「三宅」の場合は、あいだに1文字空けて高さの幅をそろえます）。  
と点訳し、句点の後ろに点訳挿入符で  
点挿「ハセガワ」「ニノミヤ」は3文字だが、「ミヤケ」はフタモジ点挿  
のように、補えば分かりやすいかと思います。

## 25. p111 5. 点訳挿入符

現在点訳校正中の本にいくつか面白い墨字表記があります。これらに漢字の説明を  
点訳挿入符を使って入れるか、入れないか迷っています。迷っている箇所は以下の  
通りです。

1. 携帯機器について次のような記載があります。  
推子の耳たぶに埋め込まれた極小のイヤフォンからは、須磨後奔で再生している動  
画の音声が続いていた。  
※須磨後奔 に、すまあとふおん とルビ

この文章の数ページ後には、推子の友人がスマートフォンを使用していると記載が  
あり、そのすぐあとに「操作性や機能、容量が格段に向上した＜須磨後奔＞という  
新しい通信機器が普及した」と須磨後奔についての説明があります。

この須磨後奔について漢字の説明は必要でしょうか。「スマートフォン」だけでも「ス  
マートフォン」との違いは出ますが、漢字が充てられていることは伝わりません。  
漢字の説明を入れる場合、初出のところになるのか、入れる場合1字1字の漢字を説  
明するのか（(漢字表記)）とだけ簡単に入れるのか…。いかがでしょうか。

2. AIに絡んだものが次のような文章で出てきます。  
ええ愛店員によって運ばれてきたコーヒーをしばらく不味そうに口に運んでいた。  
※ ええ愛 に傍点がふられています

この10ページほど後に以下の記載があります。  
十年前、「AIをもっと親しみやすい存在に変えよう」と始まった政策の一環で、あ  
る日突然＜ええ愛＞という薄気味悪い愛称があらゆるメディアで使われ出したのだ。

ここも点訳挿入符での説明は必要でしょうか。入れる場合、初出のところでしょう  
か、その後の説明のところでしょうか。

3. 子供の名前について次のような文章があります。

この年にそういう流行があったのだろう。

年中組さんは「画ラ酢（がらす）」「打ッ土（うっど）」「斜和一（しゃわあ）」などという外来語を手当たり次第に取り入れた名前がやたらと多い。

娘のズポポ組さんは「脚矢（あしや）」「舌郎（ぜつろう）」「目見（めみ）」「夢臓（むぞう）」くんに「奈爪（なつめ）」ちゃん、と身体にまつわる漢字だらけだ。

推子も娘に「肚」と名付けたが、流行りだったという以外の理由をよく思い出せない。

※カッコ内はルビ

ここの漢字説明はいかがでしょうか。読みだけでいってもよいものでしょうか。1字1字漢字の説明必要でしょうか。悩みます。

4. オンライン状態に常にいるのが当たり前の世の中で、それに対応できない「オフライン依存」の子どものための学園として〈お魅来ン学園〉というのが出てきます。

ちょうど来週、彼女が理事長を務める〈お魅来ン学園〉の学園説明会が校舎で行われるらしいという情報を発見した推子は～

※魅来に「ふらい」のルビ

1. と3. の須磨後奔と子供の名前については、漢字は当て字でしかないと考えます。その漢字でなければならぬ必然性はありません。無味乾燥な感じを倍増させます。

2. の ええ愛 はイメージ先行のキャンペーンとしての当て字かなと思います。

4. の お魅来ン学園は、このあと魅を使った料理の話題が出てきます。

どれも入れなくても、話は通じるといいますので、入れないという選択肢もあると思います。ただ、漢字説明を入れないと、そこに必然性のない漢字があてられていることは伝えられません。そこは伝わらなくても、内容が伝わればよいのでしょうか。また、どれも、漢字説明を入れることを考えると点訳挿入符内が長くなることが考えられます。

個人的には、点訳挿入符での漢字説明は必要最低限と考えています。同音異義語など、説明しないと読み誤りが起きたり、話がつながらなかつたりする場合には入れますが、そうでない場合は、文脈でわかるならあまり著者の文章に点訳者の言葉を入れたくないと思ってしまいます。点訳挿入符については、入れる入れないはもちろん、ケースバイケースだとは思いますが…一般的にはどのように考えればよいのでしょうか。また、今回の場合でしたら、どのように処理するのが適切になるの

でしょうか。

【A】

点訳挿入符の入れ方についてはお考えのとおりだと思います。私たちも、《点訳挿入符での漢字説明は必要最低限と考えています。同音異義語など、説明しないと読み誤りが起きたり、話がつながらなかったりする場合には入れますが、そうでない場合は、文脈でわかるならあまり著者の文章に点訳者の言葉を入れたくないと思ってしまいます。》のご意見に賛成です。

今回の原本をみると、A I やオンラインの社会にかなり依存している人が、オフライン生活者を揶揄しながら実は・・・というような内容の作品のようで、漢字の当て字が頻繁にあるようです。それをその都度点訳挿入符で入れていくと、作品の流れに影響すると思われます。

この作品については、点訳書凡例を用いてはどうでしょうか。

点訳書凡例で

《この作品は、外来語に漢字の当て字が多く用いられています。また、人名も特徴的な漢字が当てられています。漢字の説明は省略しました。以下に外来語の当て字の例を挙げます。

スマートフォン スマートフォン 地名「須磨明石」の「すま」、「うしろ」、「奔走する」の「ほん」

A I ええ愛 「よい」の関西弁「ええ」、愛情の「あい」

オフライン たべものの「ふ」に「お」を付けた「おふ」、来年の「ライ」、カタカナの「ン」》

このような感じでいかがでしょうか。人名の漢字の説明は要らないと思います。

## 26. p111 5. 点訳挿入符

読みが同じで漢字が違う語句の書き方について

「お母さんのお名前は？」

「典子です。私は同じのりこですが紀子と書くのです」

と、いう文章です。

「ノリコ点挿テンコ点挿デス。■■■ワタシワ■■オナジ■■ノリコデスガ■■キコト■■カクノデス点挿<ノリコ>ト■■スル点挿」

としたのですが。

また、このあと文章を読めば母の典子と、娘の紀子の区別が分かれば<ノリコ>として区別する必要はないのでしょうか。

【A】

「典子です。私は同じのりこですが紀子と書くのです」

「ノリコデス。■■■ワタシワ■■オナジ■■ノリコデスガ■■ノリコト■■カクノデス」点

挿ハハワ■ジテンノ■テン、■ワタシワ■2 1 セイキノ■キ点挿

と、文の終わりにまとめて説明した方が分かりやすいと思います。テンコやキコだけでは分かりにくいと思います。

またこのあと、母か娘かが分かる場合は、点訳挿入符などはいらないと思います。もしどうしても必要な場合は、ノリコ（ハハ）などの方が分かりやすいと思います。

## 27. p111 5. 点訳挿入符

（原文）×高見の見物 ○高みの見物

「高見」にはルビがありません。「コーケン」と読んでいいですか。点訳者は著者の意図を察して「タカミ」と読んでいますが、ルビがないので「タカミ」と読む必要がないのではないかと思います。「高見」を「タカミ」と読んで同音異義語とすべきでしょうか。「高見」の漢字の説明は入れた方がよいとは思いますが、解説文でも「コーケン」と読むか「タカミ」と読むかで書き方が変わると思います。

同様に

×「御頭付きの鯛」○「尾頭付きの鯛」

というのもあって、「御頭」を「統領」と捉えるか、「御」が付いた丁寧語とするか説明を考えています。点訳者は「御の付いた丁寧語」としています。「尾頭付きの鯛」の方の説明は「シッポとアタマ」としています。

### 【A】

これらの例は、語句や慣用句などの「読み」は正しいが、間違った漢字をあてはめて、違った意味に捉えていることを示していると思います。

「高見」をコーケン、「御頭」をトリーヨーのようにしてしまうと、提示された語とは離れた意味になり、文意を理解しにくくなると思います。

原本の全体にこのような書き方がしてある場合は点訳書凡例で、特定の章や見出しだけの書き方であれば、該当の見出しの始まりに点訳挿入符で、

《先に語句の読みを書き、そのあとに、×、○、それぞれの漢字または意味の説明を書きました》のように断って、例えば以下のように点訳してはどうでしょうか。  
タカミノ■ケンブツ■ー■バツ■「タカイ■ミル」、■マル■「ダイ数3 シャテキニ■ミル」

オカシラツキノ■タイ■ー■バツ■「カシラノ■テイネイゴ」、■マル■「シッポト■カシラ」

## 28. p111 5. 点訳挿入符

以下の原文があります。

①FUKURAの蔵書印のあるものにたびたび合うようになった。……フクラというのは珍しい姓だが、福浦または福良とでも書くのだろうか。

②主人の話しではフクラとは「深良」という姓の人で、港区南麻布5丁目の広い家に  
．．．

姓を点訳挿入符で説明したいのですが、どのような書き方が適切でしょうか。

【A】

福浦点挿コーフクノ■「フク」ニ■カスミガウラノ■「ウラ」点挿

福良点挿コーフクノ■「フク」ニ■ヨイ■ワルイノ■「ヨイ」点挿

深良点挿アサイ■フカイノ■「フカ」ニ■ヨイ■ワルイノ■「ヨイ」点挿

のように書いてはどうでしょうか。

「良」については、点挿ヨイノ■オンヨミノ■「リョー」点挿 もよいと思います。

## 29. p111 5. 点訳挿入符

俳句が話題の小説です。

1. 父は、「だって、トーク用の話題を用意していくんだろ？」僕は、噴き出してしまった。父は「投句」と「トーク」を混同しているのだ。

2. 句の評価が、駄目なときは「駄ッ句スフント！」と返ってくる（ダックスフントのダジャレだ）。

1. の「投句」と「トーク」は、説明を加えた方がいいのでしょうか。それとも、過剰になるので、説明は入れない方がいいのでしょうか。

2. の「駄ッ句スフント！」は、そのまま「ダックスフント！」でいいのでしょうか。

【A】

1. 《父は「投句」と「トーク」を混同しているのだ。》は、点訳すると共に「トーク」で、わかりにくくなりますので点訳挿入符で説明をした方がよいと思います。

「トーク」点挿ハイクノ■トーコー点挿

「トーク」点挿ハナシ点挿 または点挿オシャベリ点挿

では、どうでしょうか。

2. 「駄目なとき」と断ってあるので判断できるのかも知れませんが、説明を入れた方が親切だと思います。

「ダックスフント！」点挿ダメノ「ダ」ト■ハイクノ■「ク」ガ■カンジ点挿ト■  
返ってくる

## 30. p111 5. 点訳挿入符

語の説明が必要と思われる箇所がたくさんある本です。

1. 温かく（暖かく？）見守る

2. 不逞（不貞？）な輩



3. あれが予言ならぬ預言であるなら

4. 「戦時下」と同じニュアンスで「コロナ禍」って書いたりする。正確には「コロナ禍下」じゃないんですか。何人かは「コロナ下」と表記しているのを発見。

【A】

1. 2. は、文脈から、漢字の説明が不要な場合もあると思います。

このあとに、これらの表現についての言及がなければカッコ内は省略して

アタタカク ■ ミマモル

フテイナ ■ ヤカラ

とだけ書いた方が分かりやすい場合もあります。

もしどちらの漢字を使用するかについて、このあとにも言及があるのでしたら

アタタカク 点挿オンドノ ■ 「オン」、■ カッコナイニ ■ ダンボーノ ■ 「ダン」ニ ■  
ギモンフ 点挿 ■ ミマモル

フテイ 点挿フトドキ、カッコナイニ ■ フーフカンノ ■ 「フテイ」ニ ■ ギモンフ点挿  
ナ ■ ヤカラ

3. アレガ ■ ヨゲンナラヌ ■ ヨゲン 点挿カミノ ■ オツゲ 点挿デ ■ アルナラ

4. センジカ点挿モト点挿

コロナカ点挿ワザワイ点挿

コロナカカ 点挿ワザワイ ■ モト 点挿

コロナカ 点挿モト点挿

### 31. p111 5. 点訳挿入符

原本に以下のような箇所があります。

「時間というのは、一瞬一瞬の点のつながりでしかなく、それが一本のラインのよう  
に見えているだけです。次の「点」を一つずつ、眺めてみてください。

.....

この点を目で追っていた一瞬は、もう二度と戻ってこない一瞬であり、」

云々と続いています。また、後半では

「23 ページで、私たちは今という「・」で生きているといいましたが、死も一つの  
「・」に過ぎません。死ぬときに何かが起きると思って想像を膨らませますが、

.....

この点が消えたときが死であるだけで、やはり、人生の一部なのだと実感できます。」

とあります。

この2か所の点をどのようにすればいいのか困っています。点線を書いて点訳挿入符で説明するのがいいのでしょうか。また後半の点は間隔がのびていますので、それをどのように表せばいいのでしょうか。

【A】

これは点線ではありませんので、点が並んでいるところに点訳挿入符で以下のように書いてはどうでしょうか

「時間というのは、・・・です。次の「点」を一つずつ、眺めてみてください。

点挿 1行に短い間隔の点が数多く書いてある。 点挿

この点を目で追っていた一瞬は、もう二度と戻ってこない一瞬であり、」

「〇〇ページで、私たちは今という「テン」で生きているといいましたが、・・・死ぬときに何かが起きると思って想像を膨らませますが、

点挿 テンが1行に数個書いてあり、点と点の間は次第に広がっている。点挿

この点が消えたときが死であるだけで、やはり、人生の一部なのだと実感できます。」

### 32. p111 5. 点訳挿入符

下記のような文章の時に、同じ読みをする漢字の表し方はどうなりますか。

東京の巣鴨の地名についての文章です。

元巣鴨村は今日のJR「巣鴨」駅付近で、そこには川の支流が三本もあり、それぞれ池を作っていた。古くは「菅面」「洲処面」「須賀茂」などと書かれている。

本の中に同じような書き方が多くあります。漢字の一つずつに説明を付けると、点字を読んでいる方には却って読みにくいでしょうか。

【A】

《古くは「菅面」「洲処面」「須賀茂」などと書かれている。》だけで、この後にそれぞれの書き方の由来などが説明してあったりしない場合は、

フルクワ■「スガモ」点挿数3 シュルイノ■カキカタ点挿ナドト■カカレテ■イル  
フルクワ■「スガモ」点挿「スガ」ニ■スイメンノ■「メン」ナド、■数3 トオリ  
ノ■カキカタ点挿ナドト■カカレテ■イル

など、読み進めるのに影響しない範囲で、省略して書いてよいと思います。

### 33. p111 5. 点訳挿入符

1. 「じゃあ、私たち、似た者同士ね」

同士とは、同志のことなのだろうか

2. 詩よ残れ死よ残れ志よ残れ

1. 2. は、点訳挿入符で説明を加える必要あるでしょうか。あるとすれば、どのようにすればよいですか。

【A】

点訳挿入符で説明した方がよいと思います。

1. ドーシトワ、■ドーシ点挿オナジ■ココロザシ点挿ノ■コトナノダローカ

2. シヨ■ノコレ■シヨ■ノコレ■シヨ■ノコレ点挿「シ」ワ■ポエムト■シヌ  
■コトト■ココロザシ点挿  
としてはどうでしょうか。

#### 34. p112 5. 点訳挿入符 【備考1】

原本に「作詞した高田ひろお（本名・博雄）さん」とありますが、カッコの中の点訳の方法を教えてください。

【A】

この原本で、「ひろお」と「博雄」の表記の違いについて言及している箇所がなければ、（本名・博雄）の部分は点訳しないで、「タカダ■ヒロオ■サン」だけでよいと思います。本名が漢字であることを説明する必要がある場合は

タカダ■ヒロオ点挿ヒラガナ、■カッコナイニ■ホンミョー■カンジ点挿

または

タカダ■ヒロオ点挿ヒラガナ、■カッコナイニ■ホンミョー、■カンジデ■ハクシ  
ノ■「ハク」ニ■エイユーノ■「ユー」点挿

など、必要に応じて入れることになります。

ただ、これだけ説明するのに1行以上を要しますので、特に必要がない場合は、漢字の説明は省略してよいと思います。

#### 35. p112 5. 点訳挿入符 【備考2】

点訳挿入符を使い説明するとカッコが続いてしまう時の対処の仕方を教えて下さい。

家臣たちからは「お館様（お家形様）」と呼ばれ、

この部分はどの様に点訳すればよいでしょうか？

【A】

「お館様（お家形様）」の漢字の違いについて、原本でこの前後に言及されていず、単に2種類の書き方を示しただけでしたら、

「オヤカタサマ」と書くだけで、（～）は無視してもよいと思います。

もし、漢字で2種類の表現があることを示す必要がある場合は、

1. 「オヤタカサマ((カッコ内に異なる漢字で書いてある))」
  2. 「オヤカタサマ((「ヤカタ」は「たて」と、カッコ内に「イエ、カタチ)))」
- などの説明をいれてはいかがでしょうか。

### その3 線類

#### 1. p113 1. 棒線・点線

補足説明と思われる棒線の前後のマスあけについて、カギで囲まれた会話文の間にあります。

「もうお分かりでしょう」—彼女の言葉には、不安にさせるものがあった—「わたしの関心は精神的な面なのです。(以下略)」

この文の後は改行して次の段落が始まります。

カギと棒線の間、棒線とカギの間は記号間の優先順位から両方とも一マスあけでよいでしょうか？

【A】

前後を棒線で囲んで、カッコ類と同じように、前の語句の説明をしています。この場合は、一つの文の中に含まれていると見なして、棒線の両側は一マスあけます。

「もうお分かりでしょう」■—■彼女の言葉には、不安にさせるものがあった■—  
■「わたしの関心は精神的な面なのです。」

#### 2. p113 1. 棒線・点線

水木しげる 1922生—2015没

この場合の棒線は波線にするべきでしょうか。棒線を使うと意味が変わりますか。

写真の説明 = 筆者撮影の場合は、棒線にしてもよいでしょうか。

【A】

生没年の場合は、波線を用います。

「1922生—2015没」 数1922 ■ウマレ③⑥③⑥数2015 ■ボツ

「てびき」p114 「3. 波線」の用例「東京—大阪」に波線を用いています。このことから、範囲を表す場合は、棒線を波線に代えて点訳します。

写真の説明が終わって、その後ろに「＝筆者撮影」と書いてある場合でしょうか。

棒線を用いても間違いではないと思いますが、文脈によって、二マスあけにする場合もあると思います。

棒線やイコールは墨字では種々の場面で用いられます。殆どの場合は、棒線をその

まま用いられますが、文脈にあった点訳をすることが必要になります。

### 3. p113 1. 棒線・点線

一つの文に二つの棒線が使用されており、棒線と棒線の間の文がその前の文の説明であるときは、棒線の前後が一マスあけになるのは理解しています。しかし、一つの文に一つの棒線が使われており、その棒線の前で文章が終わっているとも考えられる場合は、「てびき」p152の「③句読点を用いない文での切れ目」から、棒線の前後で二マスあけになるのでしょうか。下記に例を示します。

1. 博物館に陳列されていても不思議では無い精巧さで、完成度の差は大人と子供 — 自分ではなかなかの腕だと思っていたマチルダは、すっかり鼻をへし折られてしまった。

2. 日が高く昇った頃に、通りの向かいに住むヴェンゴス老人を起こしに行く — しかし建物の正面玄関のカギはかかっている上に、呼び鈴を押しても応答はない。

このように、一つの文章が二つの文とも解釈できますが迷います。

#### 【A】

1. 2. の例は、共に棒線の前後は一マスあけになります。

棒線の前後が二マスあけになるかどうかの判断が必要になるのは、棒線が他の記号類と続いている時になります。

すなわち、疑問符、感嘆符、カギ類、カッコ類などに続いて棒線がある場合です。前後に記号類がない場合は、「てびき」p113 1. (2)にあるように、棒線の前後ろは一マスあけになります。

### 4. p113 1. 棒線・点線 【備考】

原本の中に挿入文があり、数行書かれた後に1行、行の4分の1程に点線が書かれて有ります。

次行に挿入文の続きがありますが、それは、確認した所、前の文の続きではありませんので、この点線は、中略を意味していると思います。

この場合の点線の書き方は、2の点三つでよいのか、または、二マス単位で長さを増すのか、その場合はどれぐらいなのか、または、点線の後点訳挿入符で中略と書くのか、どの方法がよいでしょうか。

#### 【A】

原文にそって、行頭3マス目から、②の点を3個書き、行替えして、次の文を書いてよいと思います。

②の点が3個あれば点線と分かりますので、原文の内容は伝わるとと思います。

「てびき」p113【備考】から、②の点を5個にすることもできますが、特殊な書き

方で、現在はほとんど行われていない処理なので、あまりお勧めしません。

## 5. p114 2. 矢印

子供用の本です。色々な職業に就くための進路が図になっています。

実線の矢印と点線の矢印が出てきます。

点線の矢印はどう打てばよいでしょうか。

【A】

実際の図がないので分からないのですが、実線の矢印と点線の矢印を言葉に代える、または矢印をそのまま用いないで、番号を付けるなどの工夫をするとよいと思います。

たとえば、

申請書提出 → 1次選抜 → 2次選抜 → 面接 → 合否通知

などのように、矢印で繋がっているとき、点訳挿入符で、数字の番号順に進むことを断って、

1. 申請書提出
2. 1次選抜
3. 2次選抜
4. 面接
5. 合否通知

などのように書くと、矢印を用いるより順序が分かりやすい場合もあります。

または、実線矢印も点線矢印も同じ矢印を用いても前後の文脈で分かる場合もあると思います。

実線の矢印に対して、通常と異なる変則的な流れが点線矢印で示されているような場合は、その流れ全体をカッコに囲んで書くなどの処理も考えられると思います。

## 6. p114 3. 波線

東京・大阪間    東京ー大阪間    東京～大阪間    それぞれ中点    棒線    波線と使い分けるのでしょうか。全て波線（③⑥③⑥）に統一するのは間違いでしょうか。

【A】

中点は、二つの語の並列に用いますので、「東京・大阪間」は、中点を波線に代えます。また、「てびき」p114の「波線」の用例に「東京ー大阪」を波線で点訳する例が載っています。

ですから、東京・大阪間、東京ー大阪間、東京～大阪間はすべて波線で点訳するのが適切な点訳方法となります。

## その4 伏せ字とマーク類

### 1. p116 1. 伏せ字

「〇〇フェア」という語がでてきました。

「〇〇フェア」については、「てびき」p94の「その他の固有名詞」に含まれると考えていいのかなと思いましたが、「〇〇ジャム」は商品名？などを考えていたら、だんだんわからなくなってきました。

「〇〇ミス」という語があった場合、「〇〇」が「計算」なら「ケイサン■ミス」、「〇〇」が「凡」だったら「ボンミス」になります。

それがはっきりしない「〇〇」という伏せ字だったら、「〇〇■ミス」としてもいいでしょうか。伏せ字は区切る成分と判断してもいいでしょうか。

【A】

伏せ字は、「一続きに書き表すべき1語中」の文字との間を続けて書く（後ろが仮名なら第1つなぎ符を用いる）わけですので、「一続きに書き表すべき1語中」と言えない場合は、後ろの文字との間をマスあけをして書くことになります。

前後の文脈から伏せられている言葉や数字などが明らかに分かる場合は、一続きに書くべきかどうか判断できますが、分からない場合は、前後の言葉との間はマスあけすることになると思います。

### 2. p116 1. 伏せ字

特殊音を伏せ字で表す際の質問です。

トム○エリ

をどう点訳すればよいでしょうか？

【A】

トム＝⑤マ＝エリ点挿「エ」ワ■コモジデ、■フセジト■アワセテ■数1＝オント■ナル点挿

このように、点訳挿入符で断って書くことになると思います。

### 3. p116 1. 伏せ字 【備考2】

以下の文章の『I×L×P×RECORDS』と『×』の×は、どういう風に点訳すれば良いでしょうか？

ちなみに流通をかけるにあたり我々は会社を作った。CDに記載した際にちゃんとしてる感がでるし、ここらで何か旗揚げしましょ、という気概のもとだ。もちろん事務所をかまえたりはしない、というか全然できない。名義上存在するだけのかいしゃではあったのだが、勝ってもいないのに兜の緒を締める屋号として、我々の大

きな覚悟になった。

『I×L×P×RECORDS』

アイラブポップミュージックの頭文字。『×』はハードコアパンクみたいでかっこいいからというふわっとした私の独断。

メジャーを離れてSUPER BEAVER自主レーベル設立。

【A】

全体を外国語引用符で囲み、×のところはマスあけにして、点訳挿入符で、一マスあいているところにはカケルの記号があることを断るのが、一般的な書き方になると思います。

引大 I ■大 L ■大 P ■大 R E C O R D S 引 ■点挿マスガ ■アイテ ■イル ■トコロ  
ニ ■ソレゾレ ■カケルノ ■キゴーガ ■アル点挿  
となります。

なお、これに合わせて後ろの『×』も「カケルノ ■キゴー」と書くのがよいと思います

#### 4. p119 5. アンドマーク

本文で、&マークや矢印だけが一行に書かれてあり、  
各項目は新たに行を変えて書かれていることがたまにあります。

(例)

ワインは大きく分けて次の通りに分類されます。

スティルワイン＝スタンダードなワインとしてたしなまれる。

スパークリングワイン＝炭酸ガスを含んだ発泡性のあるワイン。

&

フォーティファイドワイン＝醸造過程の途中でアルコールの添加を行います。

&

フレーヴァードワイン＝スティルワインに、薬草・果実・甘味料・エッセンスなどを付け加えたワインです。

このような書き方をされている場合、&マークはどうすればよいでしょうか。

原本と同じく&マークだけ1行に書き、改行してそれぞれ項目を書いても読みにくいと思います。

この&マークを省略しようかと思いますが、いかがでしょうか。

やはり「スティルワイン」から「フレーヴァードワイン」まで、改行せずに続けて書いて

&マークを使えるようにしたほうがよいでしょうか。

このような書き方で、項目の順序を矢印で表していることがあります。



番号が振られてあり、順序が明確であれば矢印を省略してよいと思いますが、番号が振られていない場合は、やはり省略せず書き表す工夫をしたほうがよいでしょうか。

【A】

ご質問の例では、&を省略して、3種のワインの説明を行を替えて書けばよいと思います。

分かりにくい場合は、断って番号を付けるなどの方法もありますし、文が短い場合は、それぞれをカギ類で囲んで、改行せずに、&でつなぐ方法もあるかもしれません。

矢印の場合は、番号を付ける方法のほかに、矢印の前で改行して、矢印のあと一マスあけて、2番目の項目を書き、改行して矢印を書き、一マスあけて3番目の項目を書くという書き方もあります。

## 5. p119 6. アットマーク

次の二つのツイッターのユーザー名の書き方を教えてください。

1. ねね@童貞ハントFカップ
2. @×××××

(ユーザー名なので情報処理点字記号は用いなくても良いように思うのですが)

【A】

この場合は、@に「てびき」p119のアットマークを用いて、書きます。

1. ねね■⑤⑥ ②④⑥■童貞■ハント■外大F■カップ
2. ⑤⑥ ②④⑥■バツバツバツバツ

2. の×は、ユーザー名を隠しているのであれば伏せ字記号を用いますが、このようなユーザー名であれば、「バツ」と書いた方がよいと思います。

## その5 その他の記号類

### 1. p121 2. 小見出し符類

広報やパンフレットなどの項目の列記についての質問です。

内容、費用、問い合わせ先などが原本で、内、〒、問の1文字分で太字やネガタイプの1文字でマーク表示されている場合、(ナイヨー)(ヒヨー)(トイアワセサキ)や助詞を補う書き方のほかにはどんな書き方がありますか。

また、もう一段階下の見出しがある場合、助詞を補った書き方ではナイヨーワ■キョクモクガ■……■エンソーガ……としますか。

マークの書き方については、できるだけ囲みの記号は使わずに2マスあけなどで処

理したいのですが、やたら２マスあけが多くなります。その方が読みやすいと言われる方もありますが、何かすっきりしません。

ナイヨー■キョクモクワ■……■ヒヨー■……■トイアワセサキ■……

【A】

二マスあけは、行末にかかるとマスあけの違いが分かりませんので、むしろ、句読点や囲みの記号を効果的に使用した方がよいと思います。

また、毎月読むものですので、カッコで囲む言葉も（トイアワセサキ）ではなく、（トイ）で十分分かります。

簡潔で分かりやすいように略記を用いることも必要かと思いますが、紙数の制限がないのでしたら、行替えもあまり省略せずに書く方がよいと思います。

## 2. p121 2. 小見出し符類 (2)

原本で同じ見出し内に以下のようなことが書かれてある場合です。

○返却期限 5月12日

○貸出条件

※当館の利用登録があるかた

※ご自身で来館することが可能なかた

※期限内に必ず返却できるとお約束できるかた

「返却期限・貸出条件」に小見出し符を用いようと思っています。

その際に、小見出し符のあと1マスあけをして内容を書くパターン（返却期限の所）と、小見出し符のあと改行して、次行3マス目から内容を書くパターン（貸出条件の所）が混在していても問題ないでしょうか。

同じ本の中で、異なる見出しであれば混在していても特に問題はないのですが、同じ見出し内の前後の小見出し符になりますので、問題ないのかどうか気になりました。

【A】

問題はありません。

小見出し符の後は、《次を一マスあけて本文を書き始める。または小見出し符の後ろで行替えして本文を書き始める》となっていて、特にこの二つの書き方を区別するルールはありません。

小見出し符で区別したい場合は、第1小見出し符と第2小見出し符で区別することになりますので、小見出し符の後ろの本文の書き方によって、一マスあけて書いたり行替えして書いたりしてもよいと思います。

### 3. p122 2. 小見出し符類 【備考】

小見出し符は行の途中で用いることはできないと書かれていますが、次のような用い方はできるのでしょうか。銀行の資産などに関する表を書くにあたっての点訳挿入符内の説明です。(…)は小見出し符です。

((順位■銀行名■国名… ■総資産、■人口、■100万人当たりの資産の順に記す))

#### 【A】

点訳挿入符の中でも小見出し符を用いることはできません。

また、ご質問の例の場合は、国名に小見出し符がついていますので、点訳挿入符の中でなくても小見出し符類を用いるのは問題があると思います。

((銀行名(国名)を小見出しとし、総資産、■人口、■100万人当たりの資産の順に記す。行頭の数字は順位。))

のように書いて、数字にピリオドを付け、国名をカッコ内に書けば、3マス目から始まる見出しに小見出し符を付けたことになりますので、小見出し符を用いることはできます。

### 4. p122 「コラム24」

小説の中に、競馬の馬券についての記載があります。競馬の予想をする人の言葉です。

「新潟の10レース。5－6で穴狙いかな」

「5－6」は、1着が5番、2着が6番で、連勝単式だと思いますので、数5■ー■数6（棒線でつなぐ）でいいでしょうか。

#### 【A】

第1つなぎ符をはさんで、数5＝数6 と書くのがよいと思います。

馬券は、数字が一つだけの場合と、二つ続く場合、三つ続く場合があり、それが連続して書いてある場合もありますので、連番は第1つなぎ符で続けて書くことをお勧めしています。

### 5. p122 「コラム24」

『地磁気逆転と「チバニアン」』菅沼悠介著（講談社）の中に、綱川-ショー法、松山-ブルン境界、カリウム-アルゴン法、ウラン-鉛年代測定、アルゴン-アルゴン法等二つのものをハイフンでつないだ言葉が出て来ます。この場合のハイフンは点訳では何を使ったらよいのでしょうか。何人かで検討したのですが、第1つなぎ符、マスあけ、中点など意見が出ましたが決め手がありません。

#### 【A】

綱川-ショー法、松山-ブルン境界は、人名を並記させた書き方で、ハイフンや中点

を用いて書かれたり、記号を使わずに綱川ショー法のように書かれたりしています。人名は順序が逆に書かれている場合もあります。

カリウム-アルゴン法、ウラン-鉛年代測定、アルゴン-アルゴン法は、測定法の一種で、これらも中点が用いられたり、続けて書いたりされています。

マスあけでもよいかもしれませんが、それぞれ後ろに造語要素等が付いているので、複合語内部の構成要素が対等に並ぶ区切り目に用いられる中点の用法と考えると、中点を用いるのがもっとも適していると思われます。

ツナカワ・■ショーホー      マツヤマ・■ブルン■キョーカイ

カリウム・■アルゴンホー      ウラン・■ナマリ■ネンダイ■ソクテイ

アルゴン・■アルゴンホー

## 6. p123 3. 文中注記符

文学作品の注記の書き方についてお尋ねします。

各作品の最後にまとめて説明が記載してありますが、一言程度の短い説明は、文中に挿入しても構わないでしょうか。その際、説明文は簡略化できますか。例えば、文末の「こと」という語を省略するなど。

その語源が英語やフランス語という付記もありますが、これは省略できますか。

原文のままで点訳するべきか迷っています。

【A】

文学作品ですから、原文のとおり点訳するのがよいと思います。原文の一部を省略したりすることは、原則として避けます。原文を省略するのは、墨字特有の表現で点字では影響のないものなどに限られます。「語源がフランス語」などは、墨字特有のものではありませんので、注記として書いてあれば省略しない方がよいと思います。

短い注記を、文中注記符を用いずに、該当する語の直後にカッコで囲んで記す処理をすることはできます。しかし、短いといっても、注記を挿入することは文の流れを中断しますので、十分注意したほうがよいと思います。

## 7. p123 3. 文中注記符

外国の歴史に関する本（翻訳物）を点訳しています。

原本には、注記説明が文章の中にカッコ書きでかかれており、原作者注は（～）訳者注は〔～〕、引用者注は〔～〕と三種類使われています。

本文に入る前には、「本文中の（～）は原作者、〔～〕は訳者、〔～〕は…の注記を示す」と凡例のようなものも入っています。そして、原本初出の時だけ〔以下訳注：～〕と書かれています。

点訳でも使い分けが必要でしょうか。

考えた案は以下の通りです。

①点訳でも三種類のカッコ（第1カッコ、第2カッコ、二重カッコ）を使う

②全て第1カッコに統一し、注記が出てくるとに（訳者注～、原作者注～）と言葉を補う

③第1カッコ、第2カッコを用いる。同じカッコにしたもの（例えば訳者注と引用者注を同じカッコにする）

には、②のように言葉を補う

③は、最も多い注に文言を入れないカッコを割り当て、残りの注二つに言葉を補う…としてよいでしょうか。そこらへんは自由に決めてよいでしょうか。

①～③どの方法を用いるにしても、点訳書凡例で説明を入れる予定です。

#### 【A】

いろいろな方法が考えられますが、原本でカッコ内に注が書いてあっても、点訳では文中注記符を用いることもできます。墨字ではカッコ内を小さな文字にしたり場合によっては地の文1行のスペースに2行入っている場合もあり、注だけで点字にすると1行以上になることが珍しくありません。その都度本文が中断され、読みにくいことも多々あります。また、第1カッコは注だけでなく、本来の用法（注釈的説明）にも用いますので、わかりにくくなります。

原作者注には、1、2の番号を振った文中注記符、訳者注には、001、002の文中注記符を用いることにしてはどうでしょうか。

引用者注というのは、引用文のみに付いているのでしょうか。その場合は、該当する引用文に数字なしの文中注記符を用いて、引用文の都度、引用文の最後に説明を入れることもできます。

または、3種の注記のうち、その場で読まなくても（飛ばし読みをしても）差し支えない注に2種類の文中注記符を付け、その場で必要（飛ばし読みしない方がよい）注は、第2カッコで囲んで表すこともできます。

カッコ内に、原作者注、訳者注などと入れるのは、それだけでマス数を要しますし、煩雑になるのでやめた方がよいと思います。

墨字で読む場合は、カッコ内に入っている、小さい字で書いてあったらその部分を飛ばして読んだりできるということや、点字にした場合の分量なども考慮して、点訳の方法を考えることも必要だと思います。

## 8. p123 3. 文中注記符

「OECD※が」のように、※の位置に文中注記符を入れるとき、文中注記符と後ろの「が」の間をマスあけするの、続けるの、どのように考えればよいのでしょうか。

### 【A】

文中注記符は、該当する語句や文の直後に書きます。また記号間の優先順位でも第1位になっています。また、後ろは分かち書きの規則に従います。

ですから、アルファベットの後ろでも記号類の後ろでもマスあけしないで続けて書きます。

「てびき」p123～p124の規則、用例、p131などを参照してください。

数字なしの文中注記符の場合は

外大大OECD⑤⑥②③が

となりますし、数字があっても同じです。

## 9. p123 3. 文中注記符

文中注記符のp124「山中教授」の例では、原文では語頭に注がついているのに、語の直後に文中注記符がついています。原文通りにすることは避けた方がよいのでしょうか。

原文で以下のような場合

・松江春次氏\*1に

・では一郎さま\*2に

マツエ■ハルジ⑤⑥数1②③■シニ

デワ■イチロー⑤⑥数2②③■サマニ

としてよいのでしょうか。原文の対応する注の説明では、敬称のない名前の説明になっています。

### 【A】

「てびき」には、文中注記符の(2)で、「文中注記符は原則として該当する語句や文の直後に書き…なお、特に必要がある場合は原文に従って文頭や語頭、または語中などに用いることができる。」とありますが、これは、特に原本に従って書く必要がある試験問題類などの場合で、一般文章中では、該当する語句や文の直後に書きます。

原文で語句の前にある場合は、語句の後ろに移動しますし、固有名詞につく「氏」や「様」の前に移動してもよいと思います。後ろにある注記の説明と一致していればよいと思います。

## 10. p123 3. 文中注記符

（注）は初出の文言に付ければ、以降の同一文言の文中注記符は省略してもよいのでしょうか。また、見出しや目次の見出しに（注）がついている場合は、文中注記符を見出しにつけることはできますか。

【A】

原文で、同じ語が出てくるたびにアスタリスクが付いていて、その説明がすべて同じ場合でしょうか？一般には、初出のときに1回書けばよいと思いますが、特に重要な語である、または大分離れたところに書いてあって、念のためもう一度説明しているような場合は、点訳書の巻が変わった所で、文中注記符を付け直し、また改めて説明を入れるか、点訳書の参照ページを入れるなどの工夫が必要な場合もあるかも知れません。

本文の見出しには文中注記符を付ける場合もあるかもしれませんが、目次には付なくてよいと思います。

#### 11. p123 3. 文中注記符

社会のD X(※)化が進むなか、という文章で欄外にD Xについての説明があります。点訳では、カッコは省略して、D X注記符カガ と考えたのですが、文中注記符がなければ、D Xと化の間に、つなぎ符が必要ですが、この場合、D X文中注記符に続けて、化が を書いて良いのでしょうか。

【A】

お考えのとおりです。この場合は、文中注記符と後ろの語との関係で考えます。文中注記符は前の語の直後に書き、後ろは分かち書きの規則に従いますので、造語要素は続けて書きます。

#### 12. p124 3. 文中注記符 【処理2】

《[ 1－1 ] などの表記は、各章末に出典やURLを示しています。》とあり、…後押しする [ 1－1 ]。 …増加しています [ 1－2 ]。といった書き方がされています。

[ ]を文中注記符にすることはできますか。文中注記符の間には数字以外は入れることができないということですが、つなぎ符が入っているこのような場合は、第1 カッコを使った方がよいのでしょうか。章末には出典として、1－1、1－2 というように書かれており、囲みの[ ]がないのですが、その場合文中注記符、またはカッコをつけた方がよいのでしょうか。

【A】

文中注記符の中には数字以外は使用することができませんので、[ 1－1 ] をそのままでは文中注記符にすることはできません。

ですが、この場合は、文中注記符を用いて処理するのが適していますので、1－1、

1－2などの書き方を変える工夫をする方がよいと思います。

おそらく、このハイフンの前の数字は、各章の1節、2節や見出し番号などを表しているのではないかと思いますので、その区切りごとに、文中注記符の番号を付けていくことにすれば、数字だけで十分後ろの説明と対応できると思います。

各章末の注記の説明のところで、各番号の区切り目に、1節、2節などを小見出し扱いで入れるなどの工夫をすればよいと思います。

または、そのような処理ができない場合は、ハイフンの後ろの数字が2桁以内であれば、[101] [102]などの3桁の数字で表すこともできます。

注記の説明を入れるところでは、「てびき」p124の例のように、文中注記符を付けて番号を書きます。

### 13. p127 「コラム25」

認知症の症状を整理してある原本での記号の処理について。

①性格の変化…温和→怒りっぽくなる／陽気→陰気／活動的→無気力

②実行機能障害…何かを行なうためのプロセス、段取りがわからなくなる

スラッシュを二マスあけに代えるか、スラッシュを一マスあけにして、「温和→怒りっぽくなる」■「陽気→陰気」のように、語句の塊をカギで囲むことなどを考えてみました。

#### 【A】

①性格の変化…温和→怒りっぽくなる／陽気→陰気／活動的→無気力

この場合は、スラッシュの位置を二マスあけにするのが、一般的な処理でそれでもよいと思います。ですが、スラッシュの位置で行が移ると二マスあけの効果がなくなりますので、

「温和→怒りっぽくなる」■「陽気→陰気」■「活動的→無気力」

と書くと、その心配もなくなり、より分かりやすくなります。

「てびき」p127「コラム25」には、《仮名の語句と語句の間や、…その部分をマスあけに代えたり…中点や読点、コンマ、カッコ類などの記号に置き換えます。》とありますので、カギ類で囲むことも工夫の一つと言えらると思います。

### 14. p127 「コラム25」

参考文献・資料などで / が使われています。

一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構／一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会／一般社団法人 地域包括ケア病棟協会／公益社団法人 日本リハビリテーション医学会監修 久保俊一／三上靖夫総編集『回復期のリハビリテーション医学・医療テキスト』医学書院



このような原文でスラッシュとスラッシュの間でも二マスあけで点訳をしていかななくてはならないと思います。さらに／で二マスあけで点訳すると、読み手が二マスの連続で読みづらいと思います。どのような点訳をすればよいですか。

【A】

二マスあけで点訳してもよいと思いますが、このように1項目が長いと区切り目がわかりにくくなりますので、スラッシュを中点または読点に置き換えて書くとよいと思います。

「てびき」p127「コラム25」のなかの最後の段落に「仮名の語句と語句の間や、～中点や読点、～などの記号類に置き換えます。」とあります。

## 15. p127 「コラム25」

障害福祉に関する冊子の中に「I / 4 視標」「I / 2 視標」という言葉が出てきます。インターネットで検索すると「1の4と読む」と書いているものがありましたが、それ以外に読み方を書いているものは見つけれませんでした。このような場合、どのように書いたらいいのでしょうか。

【A】

調査された資料以外でも、厚生労働省の「視覚障害の認定基準に関する検討会（議事録）」はじめ、多くの資料に「イチノヨン」「イチノニ」という読み方が示されていますので、この読み方でよいとおもいます。ローマ数字にも意味がありますので

外大 I ■ ノ ■ 数 4 ■ シヒョー

外大 I ■ ノ ■ 数 2 ■ シヒョー

となります。

## 16. p127 「コラム25」

『加齢黄斑変性』尾花明著（株）CCCメディアハウス発行の点訳です。

「加齢黄斑変性（Age-related Macular Degeneration＝AMD）」の書き方を教えて下さい。（＝は、「てびき」p113.【処理1】が適用できるのでしょうか。）

また、「ARMS2/HTRA1（Age-Related Maculopathy Susceptibility2/High-Temperature Requirement A-1）」の書き方を教えてください。（特に2か所あるスラッシュの書き方）

【A】

この場合の「＝」は、前の英語の略記がAMDであることを示していますので、前を外国語引用符で囲み、一マスあけたあと外字符でAMDと書くことで「＝」を省略することができます。

2箇所ともに、スラッシュの記号を用いてよいところです。

前は外文字を用いて、外大A R M S 数 2 ③④大H T R A 数 1

と続けて書いてよいと思います。カッコ内の外国語引用符の中でも、スラッシュの前後は続けるのが原則ですが、スラッシュの前後がともにマスあけを含む長い語の場合は、スラッシュの前後でマスあけしてよいという規則がありますので、スラッシュの前後でマスあけして書いた方が分かりやすいと思います。なお、スラッシュは、「てびき」p136にあるように、④⑤⑥ ③④ と二マス用います。

カッコ内は、引大Age③⑥大Related■大Maculopathy■大Susceptibility■数 2 ■④⑤⑥ ③④■大High③⑥大Temperature■Requirement■大A③⑥数 1 引  
となります。

## その6 記号が連続する場合の注意

### 1. p131 1. 記号間の優先順位

以下の文で、感嘆符の後のマスあけについて質問します。

「へうれーか！（わかったぞ！）」

「へうれーか」の説明として（わかったぞ）とあるので、文中として一マスあけでよいとの指摘がありました。理屈は正しいように思いますが、文中という言葉になにかひっかかるので、念のためにこの理解でよいか確認させてください。

【A】

この場合は二マスあけます。

感嘆符とカッコ類の開き記号が続いている場合、記号間の優先順位で、感嘆符の後ろのマスあけが優先されます。

感嘆符は、文中の場合も用いられますが、この場合は「へうれーか！」で1語でも一つの文になっていますので、この感嘆符は文末の感嘆符と言えます。文末の感嘆符は後ろを二マスあけますので、

「へうれーか！ ■■（ワカタゾ！）」

となります。

### 2. p133 3. 囲みの記号が他の記号と連続する場合 (3)

原文に、《…どうすればいいのか、といった「いけん」を書くのが小論文です。》という箇所があり、「いけん」から小論文までが赤字で書かれています。赤字の部分は第3指示符を使用することになっています。

ト■イッタ■第3指示符■「イケン」ヲ■カクノガ■ショーロンブン第3指示符デス。

となっていますが「いけん」は第1カギでもいいのでしょうか。またその前は一マ

スあけるのでしょうか。

【A】

「てびき」p133 3. (3)にあるように、指示符類の内側に第1カギが続く場合は、その間を一マスあけるか、一般書では第1カギを第2カギに置き換えることができます。

小論文について書いてある本ですから参考書または実用書かと思いますが、赤字で書いてあるところを指示符で囲むと指示符の部分が非常に多くなるのではないかと思います。

原本の点訳方針に関わることで、一概には言えませんが、赤字の部分に指示符を用いるのは、点訳書全体を読みにくくしているのではないかと思います。また、第3指示符は主に問題文の傍線・下線部などに用いるものですので、このような文章中の赤字の部分に用いるのはあまり一般的な使い方ではないと思います。

解説書の本文の赤字は、「てびき」p110 【処理】に該当し、[参考]に書かれているように、省略した方がよい例になると思います。

プライベートサービスや学校からの依頼の点訳でこのような希望があった場合は、別です。

## その7 体系の異なる点字表記

### 1. p136 1. 英語

「I sha' n' t be gone long. — You come too.」の「—」書き方について。

「—」を英語のダッシュ（③⑥③⑥）と考えて「Iからtoo.」まで1つの外国語引用符で囲むのでしょうか。それとも、「—」を日本語の棒線（②⑤②⑤）と考えて、Iからlong. を外国語引用符で囲み、日本語の棒線（②⑤②⑤）でつないで、You からtoo. を外国語引用符で囲む。

どちらがよいのでしょうか。

ちなみに、原文は以下のようになっています。

I sha' n' t be gone long. — You come too. (川本の訳では「そう長くはかからない。— 君もこないか。」となっています)。

【A】

原文を見せていただくと、一人の人物の一続きの発言になっていますので、この場合は英文を全て一つの外国語引用符で囲んで書くのがよいと思います。

引大 I ■ s h a ③ n ③ t ■ ～ ■ l o n g . ■ ③ ⑥ ③ ⑥ 大 Y o u ■ ～ ■ t o o . 引  
となります。ダッシュの前は一マスあけ、ダッシュの後ろは続けて大文字を書きます。

## 2. p136 1. 英語

「えいごがいっぱいどうぶつあつまれ」という絵本の点訳です。タックペーパーを使います。各見出しが英語で全て大文字で書かれています。

全て大文字の単語が3語またはそれ以上続くときは大文字パッセージ符を置き、終りを大文字終止符で示す。

と英語点訳の基礎にあるのですが、このような絵本でもそのようにするのでしょうか。

例：IN THE FOREST → 外引⑥⑥⑥ in ■ the ■ forest ⑥③外引となるのでしょうか。

### 【A】

「エリック・カールのえいごがいっぱいどうぶつあつまれ」という絵本でしょうか。この絵本は「身のまわりのペットや虫たち、野生動物など、さまざまな環境にくらす生き物の絵を約180収録し、その名前を英語と日本語で表記しています。」と書かれていて幼児から、英語を習い始めた小学生までが対象のようです。

英文を読むのではなく、英単語を覚えるのが目的のようです。

しかも日本語と英語が書かれてあるようですし、タックペーパーで読むとのことですので、外国語引用符は省略し、単語ごとに大文字符を付けることに統一して書かれてはどうでしょうか。

そうすると、⑥の点から始まれば英語と判断ができ、外国語引用符は書かなくてもよくなると思います。(パンダなどの例外はありますが…)

タックペーパーを貼るので、プライベートのご希望か、学校などでお使いになるのではないかと思います。依頼者に確認の上、上記のような点訳方法を採用してはいいかかと思います。

## 3. p136 1. 英語

本のタイトルですが、下記の場合どのように点訳したらよろしいでしょうか。

『FRaU SDGs MOOK FOOD「おいしい」の未来。』（講談社MOOK）

### 【A】

本のタイトルですので、全体をふたえカギで囲みます。ふたえカギを閉じた後ろは続けて第1カッコの開き記号を書きます。

FRaUは、講談社の女性向け月刊誌で、ドイツ語の大人の女性を意味する「frau」から来ているようです。一つずつ大文字符を付けた方がマス数も少なくなりわかりやすいと思います。

外国語引用符を閉じたあとに、第1カギの開き記号が来ますので、一マスあけでよいと思います。

引大F大R a大U■大SDG⑥③s ■大MOOK■大FOOD引■③⑥オイ  
シイ③⑥ノ■ミライ②⑤⑥  
となります。

#### 4. p136 1. 英語

英語の名言を紹介した本をUEBではなくフルスペルで点訳しています。

1. Slaveryは「奴隷」であること。-eryは抽象名詞を作る語尾で、sceneryなど  
があり～

2. この～ing形は「～しつつある」の意味です。

3. 語尾にer、ingを付ける。

1. と2. の-ery ～ing形はハイフンや波線があり語の一部と捉え外国語引用符で  
囲み、3. は語ではないので外字符で表記しましたがそれでよいでしょうか。

また「～ing」は、引③の点3個マス開けせずにing引でよいでしょうか。

【A】

原本が学生の参考書・副読本などではなく、一般書で、UEB、縮約を用いずに、「て  
びき」のp136～p140に準じて点訳するという前提でお答えします。

1. 引③⑥e r y引

2. 引③③③i n g引

3. e d、d、s、e s、i n gなどは、文字と考えて、外字符を用いて書いて  
よいと思います。

#### 5. p136 1. 英語

「DR. FEELGOOD」という曲名があります。

原本ではピリオドの後にスペースがなく続けて書かれていますが、点訳でもマスあ  
けずに書いていいのですか。もし原本が「DR. ■FEELGOOD」となっていた場合は原本  
通りにあけて書くのですか。

英文中のピリオドの後のマスあけや、略語の記号としてのピリオドの扱いがよくわ  
かりません。

人名に使用されている時は、必ず後をマス開けするのは分かっていますが、それ以  
外の場合は、マス開けてしていいのかダメなのか。原本によってもピリオドの後に  
続けて書かれていたり、文字との間にスペースがあったりと違います。てびきに載  
っている例は「PH. D.」のみなので、参考になりません。

【A】

英語のピリオドは句読符として用いられている場合は、後ろを一マスあけます。略  
称に付いたピリオドの後ろも一マスあけます。

ただ、一つの略称の間にあるピリオドの場合は、後ろもマスあけせずに続けて書きます。

p.m.（午後）、B.C.（紀元前）などは、一つの略称なので、間のピリオドはマスあけしないで、後ろの文字を続けて書きます。PH.D.も学術博士を表す一つの略称なので間のピリオドは、マスあけしないで続けて書きます。

略称の最後のピリオドの後ろは、特殊な場合を除いて、一マスあけます。

特殊な場合というのは、数符の直前のピリオド（No. 5等の場合）です。

ご質問の「DR. FEELGOOD」は、ピリオドの後ろに空白があるように見えても無いように見えても「DR. ■FEELGOOD」とピリオドの後ろ一マスあけます。

「てびき」p138の上の[参考]にある「マスあけは基本的に原文通り」というのは、文字と文字の間のこと、句読符などの記号類は、その記号の用法に従って書きます。

## 6. p136 1. 英語

英語の問題集の点訳です。

Are you Ito Eri?

— Yes, I am. / No, I'm not.

（あなたは伊藤絵里さんですか。）

— はい、そうです。／いいえ、ちがいます。）

英語の部分を外国語引用符で囲むと、棒線とスラッシュの書き方がわかりません。カッコ内の日本語の部分のスラッシュは2マスあけて書いたらいいのでしょうか。

【A】

英語の問題集の場合は、日本語の中に英単語が出てくる場合などを除き、行替えして書く英文は基本的に外国語引用符で囲まないで書きます。

この文ですと中学1年か2年の問題集と思われます。スラッシュなどの記号を用いて書くのは、理解しにくいと思われますので、それぞれの文を行替えして書いた方が分かりやすいと思います。

そして、日本文を第1カッコで囲んでやはりそれぞれ行替えして書きます。

問題集の書き方は、一般の読み物とは異なりますので、「初歩から学ぶ英語点訳四訂版」「試験問題の点字表記第2版」などを参考にしながら、「新版UEBベーシックマスター」などで、UEBの点字表記を用いて点訳することになります。

## 7. p136 1. 英語

1. 英文中の注記号は、⑤⑥・②③の文中注記符は使えないと思います。EBAEの記号、③⑤・③⑤のアステリスク（星印）は使えますか。「てびき」p136の英語の

記号一覧に載っていないので、気になりました。

Couecloud \* 30 :

とある場合の書き方は、(\*30は原本では右肩に小さい字です)

Couecloud ■③⑤・③⑤数 3 0 ■②⑤

でよいでしょうか。

注記号の前後は一マスあけとあるので、数字の後ろにコロンがくる場合も一マスあけですか。

2. 章末の注記の書き方について、この本の注には番号がついており、章末にまとめて注記を入れます。他の注記は日本語中なので、

■■⑤⑥数字②③ ■語句■■注の説明…

としましたが、

\*30のみが英文中の注記号の場合、どのように書けばよいでしょうか。

連番の中で一つだけ、英文中の注記号になっていても、かまわないでしょうか。

3. 原本では、本文中に「外国人のものでは下記のものを参照した。」という一文のあとに、行あけなしで三つの文献が記載されています。

文献は、人名・書名・日付等が、文献ごとにそれぞれ行替えになっています。(文献は三つともすべて外国語のみです。この文献のあとは、行空け無しで、また日本文が続いています。)

巻末にまとめてある参考文献ではなく、本文中にあるので、外国語引用符で囲むと考えるとよいでしょうか。また、三つの文献すべてが外国語であっても、英文全体(最初と最後)を外国語引用符で囲むより、文献ごとに外引符で囲んだほうがよいでしょうか。

【A】

英語の場合の注記符は、③⑤③⑤になり、それに番号が付いている場合は、続けて数字を書きます。そして、句読符は前に続けて書きますので

Couecloud ■③⑤・③⑤数 3 0 ②⑤

となります。

ただ、この注記だけが英語の注記符というのは気になりますので、日本語の文中注記符に統一できないか、工夫してはいかがでしょうか。

Couecloudは人名のようですので、人名を外国語引用符で囲み、これに日本語の文中注記符を付けて、コロンを棒線に変え、その後、あらたに外国語引用符で囲んで書く方法もあると思いますが、前後の文脈で不自然でしょうか？検討してみてください。

引大Couecloud引⑤⑥数 3 0 ②③ ■②⑤②⑤ ■

となります。

3. については、「外国人のものでは下記のを参照した。」と断っており、段落を変えて、すべて英語で書いてあるのであれば、外国語引用符を省略することができます。日本語に戻るときも行替えしてあれば、問題ないと思います。

もちろん、一つ一つの文献を外国語引用符で囲んでもよいと思います。どちらも間違いと言うことはありません。

#### 8. p137 1. 英語 (5)

Le Capital au XXI<sup>e</sup> siècle

を外国語引用符で囲んだ場合、二重大文字符XXIの後に終止符eでしょうか。XXIを数字と考えて文字符eでしょうか。

【A】

二重大文字符の効力の終わりを示しますので、終止符になります。

フランス語のローマ数字の序数になりますが、英語のthなども大文字のローマ数字の後は終止符になります。

以前は、ローマ数字の序数は文字符を付けていましたが、英語の規則の変更により、現在は、「てびき」p136～p140に準じて書きます。

#### 9. p137 1. 英語 (6)

出典表示が英語表示です。

出典：OECD Family Database Table C02.2.C

C02.2.Cの部分はChartの名称のようですが、ピリオドを続け書くのでしょうか。

【A】

OECDのデータベースの中の子どもの貧困に関する分野の報告を示しているようです。C02.2.Cの部分は、ピリオドを小数点（②⑤⑥の点）で表し、数符の効力が続きますので、2番目の2の前は数符が不要となります。そして、Cの前に大文字符が必要になります。

大C O数2. ①②. 大C

となります。

なお、最後のcが小文字の場合は、前に⑤⑥の点が必要です。

#### 10. p137 1. 英語 (6)

英語の参考文献の年月日の書き方についてお尋ねします。英語点字のマスあけは基本的に原文通りということですが、次の場合どのようにするのがよいのでしょうか。全て外国語の参考文献です。

DW『We are . . . . .』22.11.2018



22. 11. 2018の年月日の書き方ですが、原本の参考文献がほとんど外国語で書かれており、数も多いのですが、年月日の書き方がそれぞれ異なっています。ピリオドが用いられているもの以外に、3/18/2020と斜線が用いられているものや、2020-03-15とハイフンが用いられているもの、30 apr 2019といったものがあります。

『初歩から学ぶ英語点訳』p129には、「日付を略記する場合は、墨字で斜線などが用いられていても、点字ではハイフンを使う」とありますから、3/18/2020 は斜線を使わず、数3-18-2020とハイフンを使い、ハイフンの後は数符を使わず書けばよいということでしょうか。また、「斜線など」という書き方がされていますが、ピリオドが使われているものもハイフンにした方がよいということはありませんか。

【A】

英語の年月日の書き方は、原文でピリオドが用いられていれば、ピリオドで一続きに書きます。ピリオド（②⑤⑥の点）の後ろは数符を省略します。

数 2 2 ②⑤⑥ 1 1 ②⑤⑥ 2 0 1 8

「初歩から学ぶ英語点訳第4版」p129には、ご質問のような記載がありますが、現在一般書の英語点字は、「初歩から学ぶ英語点訳第4版」に書かれている表記を基本としてはいますが、数字と一部の記号の書き方はU E Bの表記を取入れるという変則的な方法を採用しています。ですから、これだけ読めばよいというお勧めできる参考書がない状況です。

「初歩から学ぶ英語点訳」ではハイフンの後ろは数符を省略することになっていますが、現在の一般書の英語点字の数字の書き方ではハイフンの後ろには数符を用いることになっていますので、ハイフンを用いた方法をお勧めせずに原文通り、ピリオドを用いることをお勧めします。

英語の場合は原文通りが基本となりますので、年月日に関しても、ピリオドが使われている場合は、先の回答でお示ししたような書き方で、スラッシュが用いられている場合は、「てびき」p136のスラッシュ（④⑤⑥や）を用いて、数3 ④⑤⑥や数1 8 ④⑤⑥や数2 0 2 0と書き、ハイフンを用いて書いてあれば、ハイフンを用い、ハイフンの後ろに数符を入れて数字を書くのがよいと思います。

数字と記号の関係は、「てびき」p137 (6)を参照してください。

## 11. p138 1. 英語 (7)

ロシア語の点訳の書き表し方についてお尋ねします。

「プーチンの実像 孤高の『皇帝』の知られざる真実」を点訳しています。

文中に「ロシア語の否定詞 「He」がはいっており、・・・

と、あります。書き表し方は「外大He」で良いのでしょうか？

【A】

ロシア語の「No」ですので、外国語引用符で囲み、「てびき」p240 ロシア語の文字

を参考に、外引ツラ外引と書くのがよいと思います。原文に「ロシア語の否定詞」とありますし、発音も「二エ」なので、特に断る必要は無いと思います。

## 12. p138 1. 英語 (7) 【備考】

ロシア語点字についてお尋ねします。原本『ロシアを決して信じるな』に参考文献が20あるのですが、すべてロシア語表記になっています。また、ロシア語で書かれた参考文献の中に英語の単語や単独のアルファベットの大文字が混じっています。その場合どのように書けばよいのでしょうか。

### 【A】

この原本は、新書版で一般書になると思います。専門書の場合は、ロシア語の点字本を世界中から探して参考文献を読まれる方もおられるかもしれませんが、一般書ではそこまで読む方はいらっしゃらないと考えてよいと思います。

点字のロシア語を読む方も日本に何人おられるかわかりませんので、この参考文献は省略して良いと思います。

点訳書凡例で「参考文献が20挙げられているが、すべてロシア語の原文のため省略しました」のように断ればよいと思います。

## 13. p138 1. 英語 【備考】[参考]

引用出典にロシア語で表記された書籍名が出てくるときの処理です。

引用出典で英語、日本語と入り混じっている中にロシア語で表記された書籍名が複数回出てきます。

「〇〇の記述については、『(ロシア語表記)』に詳しく解説されているので、参照されたい。」

などと書かれてありますので省略するのは難しいかと考えています。

その場合、書籍名の表記は「てびき」p240のロシア語を使用してもよいでしょうか。

もしくはネット等の翻訳機能を使用し、ロシア語から英語に変換して、点訳（凡例で断ります）するという方法は可能ですか。

### 【A】

点訳書凡例で、《ロシア語の原語表記は省略したが、引用文献などで特に必要な場合は、ロシア語の点字表記を用いた。》のように断り、「てびき」p240を参考に書くのがよいと思います。

書籍名ですので、英語に替えるのは有効な手段とは言えないと思います。

## 14. p138 1. 英語 【備考】

原本の索引に語句の解説があり、サンスクリット語が書かれています。カタカナ表記の後にローマ字表記があり、たとえばstの下に黒丸の点が付く文字が含まれてい

ますが、調べたところ、舌先を使う音の文字、反舌音を表すようです。点字では母音にアクセント符で長音は表せてもst のところが表せません。第1カッコで『stの下に（ダイアクリティカルマーク）のドット』などと入れた方がよいのでしょうか。原本中に、ローマ字表記はIAST (International Alphabet of Sanskrit Transliteration) に基づく、とあります。サピエにあげる場合、凡例で断ればカタカナ表記だけでローマ字表記を省略してもよろしいのでしょうか。

【A】

英語やフランス語などアルファベットとアクセント符で表すことができる言語以外の外国語は、一般書では点訳書凡例で断って原語の表記は省略した方がよいと思います。それらの言語を原語で読む方はほとんどいらっしゃいません。特に、原語の表記とカナ表記がある場合は、仮名表記だけでよいと思います。

15. p139 「コラム26」

参考文献中の英語文献の書き方について、一般書の巻末に記載されている参考文献中の英語文献では、書名・雑誌名・新聞名・Webサイト名 (REAGAN.COMなど)・SNS名 (Twitter) がイタリック体となっています。

「てびき」コラム26の1. では、「一般書では原則としてイタリック符は省略。参考文献リストなど必要がある場合は用いることができる」とあります。

参考文献リストでは、書誌情報（編著者名・書名・出版社・出版年など）の並び順や書誌要素の区切り記号などにより、どの部分が書名かなどは見当がつくと思いますので、点訳書凡例などで断った上でイタリック符を省略するのと、英語の書誌情報になじみのない利用者のことも考え、イタリック符を使用して記載するのと、どちらの方法が好ましいのでしょうか。

【A】

一般書であれば、イタリック符は省略することが原則ですので、特に理由がない限り省略した方がよいと思います。

一般書の場合は、原則として「てびき」p136～p137の枠内の記号で点訳することになります。

イタリック符を用いる場合は点訳書凡例で断る必要がありますが、イタリック符を用いない場合は点訳書凡例は必要ありません。

16. p139 「コラム26」

英語の絵本を点訳しています。本文中に『\*』が出てきます。見開き1ページ毎に、そのページのまとめのような書き方の文章の冒頭に表記されています。この場合、注記符の扱いと同様に、③⑤の点を二回続ける第一星印と同じ書き方でよいのでしょうか。

【A】

英語では、「\*」は、注でなくても、アスタリスクの記号を用います。

アスタリスクは、「てびき」p136の記号一覧にありませんので、「コラム26」にありますように、従来の記号を使用するか、UEBを用いるか判断することになります。

絵本の点訳ということですので、新たな記号であるUEBを用いた方がよいと思います。

UEBのアスタリスクは、⑤の点に③⑤の点になります。

■ ■ ⑤ ③ ⑤ ■ ~

という形になります。

## 17. p140 ホームページやEメールアドレス

Eメールアドレスの途中で行替えする場合、アンダラインを次行行頭に書いてもよろしいのでしょうか。オーバラインは次行になってます。

【A】

アドレスは、できるだけ区切りのよいところで行移しします。

ハイフン・アンダライン・ピリオド（ドット）・スラッシュなどは、後ろのまとまりとの区切り目に用いる記号ですので、その後ろで行移しを行い、アットマークやオーバライン（チルダ）は後ろのまとまりの先頭に置かれる記号ですので、その前で行移しをするのがよいと思います。

ですので、アンダラインは次行の先頭には置かず、前の行の最後に書いた方がよいと言えます。

なお、「てびき3版Q&A第2集」Q110も参考にしてください。

## 18. p140 2. ホームページやEメールアドレス

当センターでは奥付のときの出版社のホームページアドレスについて、ホームページアドレスが1行（32マス）に収まるようであれば、次の行に書くようになっています。（小見出し符のあとは1マスあいて、次行の1マス目からアドレス囲み符号をつかってアドレスを書く）

普通であれば、小見出しのあと、続けてホームページアドレスを書き、2行目以降は行頭に行継続符（④の点）を使うと思うのですが。

ホームページアドレスが1行（32マス）に収まるようであれば、行継続符（④の点）を使わずに、書いたほうがいいのでしょうか？

【A】

次行1行に収めるために、小見出し符を付けた行が極端に短くて行末が大きくあいていると気になりますので、小見出し符のあと一マスあけて、ホームページアドレスを書いた方がよいと思います。

長いアドレスを意識的に1行に納めるのがよいかどうかについては、一概には言え

ませんが、2行に分けてもよみにくいということはありませんし、適当なところで区切ってありますので、その方が読みやすいという面もあります。

## 19. p140 2. ホームページやEメールアドレス

ファイル名について

続・句集(最終原稿).docx

最終ゲラ10.30.pdf

拡張子の部分は外字符を使用してよいと思っていたのですが、アドレス囲み符号を使用しないといけなんでしょうか。また、外字符でよい場合、数字の後ろのドットはどのように書けばよいのでしょうか。

【A】

ファイル名は数字とアルファベットだけの場合は、外国語引用符や外字符で書くこともできますが、記号が含まれる場合は、アドレス囲み符号で囲んで書くことになります。

続・句集(最終原稿).docx は、

ゾク■クシュ（サイシュ■ゲンコー）■⑥②③⑥②⑤⑥docx⑥③⑤⑥

ですが、

最終ゲラ10.30.pdf の場合は、「10.30」が日付なのか、この部分もファイル名として書き方が指定されているのかによって変わってくると思いますが、

10から半角英数で書く場合は、

サイシュ■ゲラ■⑥②③⑥数10②⑤⑥30②⑤⑥pdf⑥③⑤⑥

（30の前は数符を書かない）

10.30は日本語の日付として書く場合は、このピリオドは省略し、一マスあけてもよいと思います。

サイシュ■ゲラ■数10■数30■⑥②③⑥②⑤⑥pdf⑥③⑤⑥

となります。

## 20. p141 3. 数学記号

下記の文章の数字表記に迷っています。

《研修者がデータの半端な部分（0.0000…1のような端数）を切り捨てて》

この、「0.0000…1」は点線（②の点）を使い「数0.0000■…■数1」と書くのでしょうか。少し違和感を感じますが、他の書き方はありますか。

【A】

数式の省略を表す点線は、②②② で一つの数式内では続けて書きますので

数0②0000②②②1

となります。最後の1も、 $0.0\cdots$ に含まれる数ですので、数符は省略します。

一般文章中ですが、数学記号を用いなくて書くことはむずかしいですし、この場合は、特殊な記号ではないので、このように書くのがよいと思います。

## 21. p141 3. 数学記号

円周率が32マス以上続いています。そのあとに、「身一つ世一つ生くは無意味曰く～闇に泣く」と数字分（37個？）の覚え方が書いてあります。このような時の書き方を教えてください。

【A】

一つの数字が2行以上にわたる場合、一般書で、特に数字をすべて書く必要が無い場合は、適当なところまで書いて、後ろは点線にして省略することが多いと思います。しかし、32マス以上続いても、ひとつの数字として書き表す必要がある場合には、一つの数符の後ろに次行になっても続けて書きます。次の行に改めて数符を書いたり、行末のつなぎを使ったりはしません。

今回ご質問の場合は、数字と覚え方を比べながら読むことになりますので、数字をすべて書いた方がよいと思います。

そして円周率であることと、覚え方が書いてあるので、数字が2行にわたっていることを特に断らなくてもよいと思いますが、分かりにくいと思われる場合は、数字を書いた後で、点訳挿入符で数字が2行にわたっていることを断ればよいと思います。

## 22. p141 3. 数学記号

健康に関しての一般書で、血圧の数値についての表があります。その中で、

1.  $>$ や $<$ の記号がありましたので、だいなり、しょうなりと点訳しました。言葉にせず、記号の方が読みやすいでしょうか。

2.  $\geq$ もありまして、記号にしても言葉にしてもてびきに載っていませんでした。どのように点訳したらよろしいでしょうか。

【A】

一般書の場合は①も②も言葉で書くことをお勧めします。記号を用いる場合は、点訳書凡例等で断ります。

① は ダイナリ ショーナリ でよいと思います。

② ダイナリ ■イコール と読みます。記号で書く場合は、②⑤⑥②⑤⑥ になります。

ただ、今回は、表ということですので、表の形によっては記号を用いることもある

かもしれません。その場合は、表の中で、点訳挿入符を用いて断ります。

### 23. p141 3. 数学記号

一般書に「10のn乗。これは10nと記す」という内容の記述があります。10nのnは右肩に小さくあり、2乗、3乗の時と同じ表記です。どのように点訳したらよいでしょうか。

【A】

10のn乗は、数学記号では、数10④⑤ツ と書きます。数字の10の後ろに④⑤の点を書き、外字符を付けないnとなります。

一般書の中では、この記号は用いずに、10ノ■外n＝ジョーと書くことになっています。

ただ、今回は、10のn乗の書き方の説明ですので、ここでは、数学記号を用いて書くことになります。前に説明がありますので、特に点訳挿入符などをいれなくても分かると思います。

### 24. p141 3. 数学記号

「10の20乗年」を数式で表すにはどう点訳するのですか？

「文系のためのめっちゃやさしい宇宙」という書を点訳しています。数学の試験問題ではないので、「10ノ■20ジョー」としてもよろしいのですか？またその場合、「年」は、「10ノ■20ジョーネン」でよろしいのですか？「ネン」を第1カッコで囲む必要はありますか？

【A】

一般書の中では、ごくなじみのある数学記号以外は、使用しないで書くことになりますので、

数10ノ■20ジョーネン

と書きます。仮名で書かれた単位を第1カッコで囲むのは、数学記号を用いて書いたときですので、この場合は、カッコで囲まないで書きます。

### 25. p141 3. 数学記号

$T=50+10(X_i-X(-))/SD$

このT得点は、平均が50、標準偏差が10で上の式に当てはめることで算出できる。

という部分が、点訳している心理試験に出てきます。偏差値を求める式

偏差値＝(得点－平均点)÷標準偏差×10+50

に似ているように思います。

10の後に×の記号はないので書きませんが、

- ①  $(X_i - X(-))/SD$  をカッコ（大カッコ）で囲まなくてもよいのか
- ②  $X$  の後の  $(-)$  は、小カッコの中にマイナス記号でよいのか
- ③  $/$  は、÷記号でよいのか

以上3点迷っています。

【A】

T得点は、 $T = 50 + 10 \times (\text{個人の記録} - \text{平均値}) / \text{標準偏差}$  で求めますので、

$(X_i - X(-))$  は、(個人の記録－平均値)を表します。

平均値は、 $X$ の上に横棒を書きますが、それを印刷等の関係で、書き表せないために $X(-)$ という形になったものと思われます。これは、 $X④①④$ と書きます。

この式をそのまま書くと、 $SD$ は言葉を囲むカッコに外字符、2重大文字符を用いて

⑤⑥ ⑥ $T = 50 + 10 \div ②③⑥$  ⑥ $X⑤⑥i - ⑥X④$  ①④ ③⑤⑥ ③④ ( $SD$ ) モ

と長くなってしまいますが、

今回、日本点字委員会の「数学点字表記解説」の専門家の方にうかがったところ、これは正式な数式ではないので、以下のように書いた方が分かりやすいというアドバイスをいただきましたので、以下の書き方で点訳することをお勧めします。

分数囲み記号や言葉を囲むカッコなどを省略しています。

⑤⑥ ⑥ $T = 50 + 10②③⑥$  ⑥ $X⑤⑥i - ⑥X④$  ①④ ③⑤⑥ ③④ ⑥ ⑥ $SD$

＋、－、＝はそれぞれ、②⑥、③⑤、②⑤②⑤ です。

このようにすると、3マス目から数式を書いても1行に収まり分かりやすいと思います。

## 26. p141 3. 数学記号

科学者の研究についての本の中に、図の説明で線分ABという表記があります。この場合、点Aと点Bを結んだ線のことを表していますが、点訳では外字符と二重大文字符を使うべきでしょうか。それとも、それぞれに外字符と大文字符を付けた方がよいのでしょうか。

【A】

数学の点字表記でも、線分は二重大文字符を用いて表しますので、一般書の中でも、  
センブン■外大大AB

と二重大文字符を用いて書きます。

## 27. p141 3. 数学記号

算数ドリルの点訳中です。その中の問題文で、「空欄記号に当てはまる数をいれなさ



い」というのがあり、この点訳で四角の空欄記号（ここでは□と表記）の後の助詞「に」の前は一マスあけという指摘を受けました。私の理解では、例えば  $4 \times \square$  のような数式のあとは一マスあけですが、単に「□に当てはまる数をいれなさい」の問題文では「に」の前のマスあけは不要と考えていますが、どちらがよいのでしょうか。

【A】

空欄符号には、数やアルファベットが入る可能性がありますので、算数や数学、理科では、空欄符号の後ろは一マスあけるように統一するのがよいと思います。

なお、教科書では、小・中と高校、教科などによって少し違いがあり、空欄符号が単独であっても、後ろをマスあけしないことで統一されている教科もあるようです。いずれにしても、処理を統一することが大切なので、小・中学では、後ろをマスあけすることで統一するのがよいと思います。

## 28. p141 3. 数学記号

一般書に出て来る数式です。

$y = f(x)$

外 y ■ イコール ■ 外 f (外 x)

$XA + XB + XC$

外 大 大 X A ■ プラス ■ 外 大 大 X B . . .

となりますか。

【A】

$y = f(x)$  は、単純な四則計算ではなく、関数を表しているので、数学記号を用いて書いた方がよいと思います。

⑤⑥ y ②⑤②⑤ f ②③⑥ x ③⑤⑥

となります。⑤⑥の点は、最初に一つだけ書き、後ろの f や x には、⑤⑥の点は付けません。また (x) のカッコは、外国語引用符と同じ形になります。

特殊な数学記号を用いているわけではありませので、点訳書凡例等で断る必要はありません。

$XA + XB + XC$  は、

外 大 大 X A ■ プラス ■ 外 大 大 X B . . .

と書いて良いと思います。

ただ、この二つの数式が、同じ原本の中にあり、これ以外にも多くの数式が出てくる場合は、点訳書凡例で断って、数学の点字表記で書いてもよいかもしれません。

## 29. p141 3. 数学記号

小説の中に、

$$X=V_0\cos\theta\cdot t$$

$$Z=V_0\cos\theta\cdot t-2\frac{1}{2}gt^2+h$$

とあります。

想像するに、

エックス イコール ブイゼロ コサインシータ カケル ティー

ゼット イコール ブイゼロ コサインシータ カケル ニブンノイチ ジーティージ  
ジョー タス エイチ

と読むのではないかと思います。

どのように点字表記すればよいでしょうか。

#### 【A】

どのような小説の中のどのような状況で書かれているのかによって処理は変わってきます。

この数式を正確に書かないと小説を読み進めるのに支障がある場合は、数学記号を用いて数式を書いたことを断って、数学記号を用いて書きます。

この数式は高校の物理で学ぶ式のようなものです。たとえば、登場人物が授業中にぼんやりとほかのことを考えていて、黒板や教科書に書いてあるこの数式がまったく頭に入らないというような状況であれば、数式は省略できます。

上に書きましたような原本の内容、文脈によって

1. 点訳書凡例、または点訳挿入符で、数学記号を用いて数式を書いたことを断って

⑤⑥⑥X②⑤②⑤v数0⑤⑥cos④st

⑤⑥⑥Z②⑤②⑤v数0⑤⑥cos④st③⑤数1③④数2⑤⑥gtキ②⑥h

と書く。

#### 2. 数式の位置に

二つの数式点挿三角関数を用いた数式は省略点挿

#### 3. 文脈の前後でその式が示す内容が分かれば

二つの数式点挿放ったボールの、一定時間後の位置を計算する数式は省略点挿

などと、文脈に合わせて点訳挿入符内の文を工夫するとよいと思います。

### 30. p142 3. 数学記号 【備考】

数学の記号の $\sqrt{3}$ の書き方を教えてください。

【A】

一般文章中に、これだけが単独で書かれてある場合は、数学記号は用いずに、「ルート■数3」と読むように書くのがよいと思います。

数学記号を用いて書けば、前後を一マスあけて

⑤⑥ヨ数3

となりますが、ルートの数学記号は、プラスやカケルなどの一般的な数学記号ではありませんので、⑤⑥ヨ数3 ■（ルート■数3）のように説明を入れた方がよいと思います。

一般書で、ほかにも、数学記号が多用されている原本の場合は、点訳書凡例で断るなどの工夫が必要になります。

### 31. p143 4. 単位記号

運動の強さを表す単位として「メッツ・時」があります。この場合の中点はそのまま使えるでしょうか。「メッツ」×「時間」の意味だということから考えると、適切でないようにも思えます。書き表し方を教えて下さい。

【A】

一般文章中であれば、中点を省略して続けて書いてよいと思います。実際に「メッツ時」の書き方もあります。

一般に用いられている単位として、「キロワット時」がありますが、これも「キロワット・時」（キロワット×時）の意味です。

理科の学習書などの場合は、漢字や仮名では書かず、キロワット時も kw・h と書いてあります。その場合は、「・」は③の点を用い、すべて続けて書きます。

Metsは、単位記号ではなくMetabolic Equivalents（代謝当量）の略ですので、③の点を用いた書き方には適さないと思います。

### 32. p143 4. 単位記号

単位の後に文章のカッコが続く場合は一マスあけますが、英文字を借用した点字特有の単位記号である℃、%、° も単位と同じ対応でよろしいでしょうか。

127万m<sup>2</sup>（茨城工場） 数127マン⑤⑥mキ■（イバラキ■コージョー）

80.1℃（沸点） 数80.1⑤⑥d大C■（フッテン）

50%（対前年比） 数50⑤⑥p■（タイ■ゼンネンヒ）

【A】

「てびき」p107（4）にありますように、外文字を用いて書かれたアルファベットの後ろと、注釈的説明に用いられているカッコ類とは続けて書きますので、

80.1℃（沸点） 数80.1⑤⑥d大C（フッテン）

50%（対前年比） 数50⑤⑥p（タイ■ゼンネンヒ）

は続けて書きます。

ただ、単位の中に、数学記号が含まれる場合や漢字や仮名を囲んだカッコと続く場合は、数学記号の規則に従って、一マスあけるのがよいと思います。

127万m<sup>2</sup>（茨城工場） 数127マン⑤⑥mキ■（イバラキ■コージョー）

平方メートルを表す⑤⑥mキ の「キ」は数学記号ですので後ろを一マスあけます。

100⑤⑥大W（ジ）■（ワットジ）

### 33. p145 5. 理科記号

薬理学の本に「動脈血酸素飽和度（SpO<sub>2</sub>）※2は下り数字」とあります。

Spは飽和度（Saturation）のS、パルスオキシメータ（pulse oximeter）のpを合わせた略記で、O<sub>2</sub>は酸素です。この表記はどうなりますか。

また、酸化ヘモグロビン（HbO<sub>2</sub>）の方法も教えてください。

「SpO<sub>2</sub>は一般的には…」と文章になっている場合は、化学式扱いで後ろを一マスあけてよいでしょうか。

【A】

SpO<sub>2</sub>の酸素は化学記号ですが、Spは一般の略語になります。このような場合の書き方は「点訳のてびき第3版Q&A第2集」p62の《Q》を参照してください。

外大S p大O②③ と書きます。②③は、下がり数字の2（数符無し）です。

本文中に、血中酸素飽和度（S p O<sub>2</sub>）という形で出てくる場合は、カッコは下がり数字と誤読される恐れもありますので、原則として、カッコは省略し、前後一マスあけにするのがよいと思います。後ろが助詞・助動詞でも、一マスあけます

外大S p大O②③■ワ のようになります。

酸化ヘモグロビンも同様に、外大H b大O②③となります。

### 34. p145 5. 理科記号

H375, 000, 0000132, 000, 000C85, 700, 000N6, 430, 000Ca1, 500, 000P1, 020, 000S206, 000Na183, 000K177, 000Cl127, 000Mg40, 000Si38, 600Fe2, 680Zn2, 110Cu76I14Mn13F13Cr7Se4Mo3Co1

人間の体を表す化学式ということですが、これをどのように書けばよいでしょうか。

「てびき」には、原子数は数符なしの下がり数字で書く、大文字は最初の元素のみにつけるとしか書いてありません。

位取り点は用いていいのでしょうか。また、1行に書ききれない場合の処理はどうすればよいでしょうか。

【A】

点字理科記号・点字数学記号の専門家に伺ったところ、これは正式な化学式とは言

えないので、一般書の中では点訳挿入符などで断って、下記のように分かりやすく書いた方がよいとのことでした。

元素名には⑤⑥を付ける

元素名の後ろ続けて、数符を書き位取り点を用いて数字を書く

これを1セットとして、それが1行に入る分だけを1行に書く

行末には③⑥のつなぎ符をつける

次行は一マス目から書く。

このことを点訳挿入符で、「化学式の書き方ではなく、元素名と数字を続けて書き、行末にはつなぎ符を用いた」と断るとよいと思います。

### 35. p145 5. 理科記号

炭素Cには12、13、14などの同位体がありますが、これらについて、この分野の専門的知識が少ない読者に対して、「質量数■数 1 2 ■炭素」などと点訳するのは間違いでしょうか。

【A】

原本の種類、内容、文脈によって、点訳の方法を決めることになります。理科記号で書いてあることが必要であれば、点訳書凡例や点訳挿入符で断った上で、点字の理科記号を用いて書きます。

質量数12の同位体は、外大C数12 と書きますし、

原子番号を入れても外大C数②③⑤ ① ①② （下がり数字の6に続けて数符無し  
の1 2）

と書きますので、上記のように断れば、理科記号を用いても分かりにくいことはないと思われます。

原文で記号で書いてある場合、前後の文の流れが不自然にならないように

外大C数12■点挿 質量数12の炭素 点挿

と書くことも考えられます。

### 36. p145 5. 理科記号

「16O」で構成される「比べて軽い水（H<sub>2</sub> 16O）」と、「18O」で構成される「比べて重い水（H<sub>2</sub> 18O）」です。

「16O」は酸素16のことで、上付き数字16にアルファベット大文字O。（H<sub>2</sub> 16O）は、大文字H、下付き数字2、上付き数字16、大文字Oとなっています。以下同様。この書き方はどうなりますか。

カッコは省略したほうがよいとありましたが、下記のような場合はカッコや読点は

省略するのでしょうか。

1. 炭素C(だけ) でできている～
2. 物質(以下C<sub>60</sub>)の研究に～(60は下付き数字)
3. ～は炭素C、～

【A】

上付き数字に元素名は、その元素の質量数を表し、

⑤⑥⑥O数16

と書きます。

⑤⑥⑥H②③○数16

⑤⑥⑥O数18

⑤⑥⑥H②③○数18

カッコの省略をお勧めしているのは、理科記号にカッコが続く場合です。その場合は下がり数字と続く第1カッコの閉じ記号が下がり数字の7と読めてしまうので、省略した方が分かりやすいと思います。

1. 炭素■外大C■(だけ)で■できている～

これは、Cの後にマスあけがありますので、原本の通りにカッコを用います。

2. 理科記号にカッコが続き、しかもCの原子数が60という馴染みのない形です。ので、カッコを続けるのは避けたほうがよいと思います。しかし単純にカッコを省略すると文脈がおかしくなりますので、以下のように工夫をしたらどうでしょうか。

物質(以下■外大C②③⑤③⑤⑥■ト■カク)ノ■研究に～

または、物質■外大C②③⑤③⑤⑥■ノ■研究

3. 読点も避けた方が分かりやすいとは思いますが、読点については、誤読の恐れがなければ、原文通り用いてもよいと思います。

この例では、読点を省略する場合は、二マスあけになると思います。

～は■炭素■外大C■■～